

シラバスデータ		2025/4/1
科目名	現代倫理	
年度	令和7年度	授業の目的・ねらい
学科	全学科	<p>本学の建学の精神・校訓・教育方針を具現化するための授業。 倫理を基本とした全人教育としての本科目を履修することにより、社会人としての心構え、グローバルな教養を身に付け、有意な人材となることを目指す。</p>
学年	1年	
コース	—	授業全体の内容の概要
開講時期	通年	<p>社会におけるさまざまな規範の根拠について、哲学の誕生から宗教の発展、現代の動向を講義や演習、グループワークを通して学ぶ</p>
授業回数	30回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	4単位	<p>この授業を学ぶことにより、倫理学の基本的な考え方を身につけ、自己実現を果たすために自分が社会にどのような価値を与えられるかを考え、自己が成長を実感できるようになることを目指す。</p>
授業担当者	齋藤 照安	
実務家教員	○	
使用テキスト 参考文献	<p>参考資料: 本学「学生の手引き」 CANジャーナル(本学機関誌)、「現代の倫理」(山川出版社)、「ディープな倫理」、「倫理 愛の構造」(東京大学出版会)、オリジナルプリント</p>	
評価方法	前期・後期の試験結果、授業態度、出欠状況を加味した上で、学生の手引きに基づいて評価する。	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	授業「現代倫理」の趣旨	倫理、道徳、哲学を学ぶ意義
2	日本の道徳教育と問題点	日本の道徳教育と問題点
3	倫理の意味	建学の精神、倫理の意味
4	人間としての自覚	生きがい・モラリストの人間関係
5	古代ギリシャの哲学	タレス、ソクラテス、プラトン、アリストテレス
6	イギリス経験論と大陸合理論	ベーコン、デカルト、カント
7	ドイツ哲学の全盛期	ヘーゲル、ショーペンハウエル、ニーチェ
8	現代世界への挑戦	ダーウィン、マルクス、デューイ、サルトル
9	古代中国の思想家	諸子百家、孔子、孟子
10	老荘思想	老子(自然の道) 荘子(自由の精神)
11	日本の経営者(1)	松下幸之助 日本式経営と哲学の創出
12	日本の経営者(2)	稲盛和夫 日本航空を再生させた「フィロソフィ」と「アメーバ経営」

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
13	日本の経営者(3)	鈴木敏文「ブレない視点」をもつ、「シンプル思考」に徹する、心を揺さぶる「伝え方」
14	前期のまとめ	1回目から8回目
15	前期のまとめ	9回目から13回目
16	読書のすすめ	読書のすすめの考え方
17	キリスト教	キリスト教の開祖(イエス・キリスト)
18	自身の倫理観を見つめる	童門冬二著PHPより「品格と風土」を読み、考えをまとめる
19	イスラーム教	イスラーム教の開祖(ムハマンド)
20	仏教	仏教の開祖(ブッタ)
21	倫理の発展	現代社会に求められる倫理学 朱子・墨子(戦争否定論)
22	戦争と平和(1)	日本の歩んだ道
23	戦争と平和(2)	戦争後の日本の思想
24	戦争と平和(3)	社会契約説
25	奉仕とボランティア	奉仕活動の意味
26	社会学の理念	社会学とはなにか
27	人間関係について(1)	若者にとっての人とのつながり
28	人間関係について(2)	人間関係によるストレス
29	社会をつくる 家族の絆とは何か	現代社会と社会運動 親子の関係、核家族化
30	後期のまとめ	17回目から29回目のまとめ

シラバスデータ		2025/4/1
科目名	相談援助の基盤と専門職 I	
年度	2025年度	授業の目的・ねらい
学科	介護福祉学科	相談援助の理論を基盤とした人間関係の形成とコミュニケーションの基礎を学び、対人援助職の基礎的学習を行う。同時に介護の基本である多職種連携の重要性のもと、それぞれの役割と機能を考える。
学年	1年	
コース		授業全体の内容の概要
開講時期	前期	この授業は、介護福祉士養成課程の『人間と社会の理解』の領域の「人間関係とコミュニケーション」の内容を行うものとする。演習を中心とした活動授業を行い、介護実践に必要なコミュニケーション能力を養うことを目的とする。 グループディスカッションや体験学習を主とするため、自分を表現し、積極的にいろいろな人と関わるようにすること。
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	2単位	①人間関係形成のためのコミュニケーション技術を理解し、実習等で振り返りながら実践で活用できるようになる。 ②自己覚知や他者理解等を通して、自分や他人に対しての理解が深まる。 ③コミュニケーション技術の活用により、介護現場で協働する関係者との適切な情報共有、共通理解のための方法について理解し、実践することができる。
授業担当者	井川真世	
実務家教員	○	特養、老人デイサービスセンターにおける社会福祉士、介護支援専門員としての実務経験
使用テキスト 参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・最新 介護福祉士養成講座 1 人間の理解 第2版 (中央法規) ・最新 介護福祉士養成講座 5 コミュニケーション技術 第2版 (中央法規) 参考:対人援助の現場で使える 聴く・伝える・共感する技術 便利帳(翔泳社) 	
評価方法	・出席率 ・授業態度(グループワーク時も含む) ・提出物(課題)評価 ・試験(小テストを含む)	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	オリエンテーション	アイスブレイキング 自己紹介
2	自己開示と自己覚知	ジョハリの窓 ラポール形成とは
3	コミュニケーションとは	コミュニケーションの基本構造 言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション
4	援助職として大切にしたいこと	マインド バイステックの7原則
5	聴き上手になろう	ブロッキング、話しやすい雰囲気作り、クローズドクエスチョン、オープンクエスチョン
6		聞きたい気持ちを表現しよう、パーソナルスペース、傾聴、ペーシング、ミラーリング
7		メッセージの共有、繰り返し、要約、言い換え、聴く力チェック
8	伝え上手になろう コミュニケーション術を身につける	バリデーションとユマニチュード
9		相手に寄り添うとは何だろう 支援者にとって必要な技術
10		トレーニングワーク演習:バリデーションやユマニチュードの実践
11	共感上手になろう	自己覚知(エゴグラム)・自分と他者の理解 先入観や思い込み
12		指示と助言・リフレーミング 受容と共感、ニーズとデマンド
13	援助職のスキル	面接技法、ジェノグラム、エコマップ
14		多職種連携 家族への助言・指導・調整
15	相談援助技術	援助技術ロールプレイ、期末考査

シラバスデータ		
科目名	チームマネジメント	
年度	2025年度	授業の目的・ねらい
学科	介護福祉学科	介護実践は、介護のみならず医療や保健等からなる包括的なチームによる実践です。この授業では、チームで働く力を養うためのコミュニケーションやチームマネジメントの基礎的な力を身につけることを目指します。
学年	1	
コース		授業全体の内容の概要
開講時期	後期	この授業では、現場で起こりうる課題を題材にした事例を活用し、ケースメソッドによる学習を通して業務課題の発見や、リーダー・フォロワーの役割について疑似的に考える内容となります。
授業回数	15	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	2	① 福祉サービスにおける組織の機能や構造について理解できる。 ② チームでケアを展開するために必要な、様々な実践力について理解できる。 ③ チームワークとは何かを理解し、そこで必要となるリーダーとフォロワーの役割について説明できる。
授業担当者	川崎誠之	
使用テキスト 参考文献	人間関係とコミュニケーション	
評価方法	授業態度、出席状況および学期末試験の成績で総合評価する。	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	授業の導入	介護サービスの特性と求められるマネジメント
2	チームマネジメントの基本	チームマネジメントの基本
3	ケアを展開するために必要なチーム	ケアを展開するために必要なチーム
4	実践力を高めるためのチームマネジメント	実践力を高めるためのチームマネジメント
5	チームワークに必要なリーダーとフォロワー	チームワークに必要なリーダーとフォロワー
6	介護職としてのキャリアデザイン	介護職としてのキャリアデザイン
7	キャリア開発のしくみ	キャリア開発のしくみ
8	キャリア開発と自己研鑽	キャリア開発と自己研鑽
9	福祉サービスと事業所組織	福祉サービスと事業所組織
10	事業所組織の機能と役割①	事業所組織の機能と役割①
11	事業所組織の機能と役割②	事業所組織の機能と役割②
12	事業所組織の経営	事業所組織の経営
13	地域におけるチームマネジメント	地域におけるチームマネジメント
14	業務課題の発見と解決の方法①	業務課題の発見と解決の方法①
15	業務課題の発見と解決の方法② 試験	業務課題の発見と解決の方法② 試験

シラバスデータ		2025/4/1
科目名	社会福祉概論	
年度	2025年度	授業の目的・ねらい
学科	介護福祉学科	社会福祉全般にわたる概念や価値について学び、他の各論との接点を見出す。同時に実践場面において、それらの概念や価値がどのように生かされるのかについて学ぶ。
学年	1年	
コース		授業全体の内容の概要
開講時期	通年	①福祉・介護分野の基本である人権や尊厳、自立の概念を理解する。 ②今日の「社会福祉」に至る歴史を学び、社会と生活のしくみについて理解する。 ③地域共生社会の実現に向けた制度や施策についての理解を深める。 ④社会保障制度について学ぶ。
授業回数	30回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	4単位	①「社会福祉とは何か」について、基本理念や考え方を他者に説明できる。 ②我が国の社会福祉発展の歴史を理解したうえで、現代の福祉課題についても考えることができる。 ③人間理解によって専門職の目指す支援のあり方をつかむことができる。 ④社会福祉の法律や制度の概要を理解し、多種協働の実践を学ぶ。
授業担当者	井川真世	
実務家教員	○	特養、老人デイサービスセンターにおける社会福祉士、介護支援専門員としての実務経験
使用テキスト 参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・最新 介護福祉士養成講座 1 人間の理解 第2版 (中央法規) ・最新 介護福祉士養成講座 2 社会の理解 第2版 (中央法規) ・見て覚える！介護福祉士国試ナビ 2026(中央法規) 	
評価方法	・出席率 ・授業態度 ・提出物(課題)評価 ・試験(小テストを含む)	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	オリエンテーション	福祉って何だろう
2	人間の尊厳	人権とは 人権思想の源流
3		利用者主体の考え方 十人十色ゲーム
4		利用者主体の実現 介護福祉士倫理綱領
5	福祉の歩み	社会福祉の源流 ※確認テスト1
6		社会福祉の基礎～発展① 福祉の法体制(生活保護法)
7		社会福祉の基礎～発展② 福祉の法体制(老人福祉法)
8		福祉の法体制(社会福祉法)
9	自立のあり方	ノーマライゼーションの等の福祉理念 ※確認テスト2
10		自立と自律 自立支援とは
11	心のユニバーサルデザイン	バリアフリーとユニバーサルデザイン ※確認テスト3
12		シンボルマーク 共生社会
13		福祉ポスターを作成しよう
14	人権侵害	尊厳に配慮した介護実践とは 権利擁護 ※確認テスト4
15	人権侵害	人権侵害の現状 虐待に関する法体制

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
16	生活の仕組み	家族の機能と役割 社会と生活のしくみ 人生100年時代 ※前期確認テスト5
17	社会の仕組み	データから今の社会を読み取ろう
18		社会保障制度とは(1)
19		社会保障制度とは(2)
20	地域福祉	地域福祉とは ※確認テスト6
21		地域福祉資源
22	地域社会	地域共生社会
23		今の社会における福祉課題について考える
24		集団討議 AsIs・ToBe
25	介護実践に関連する諸制度	成年後見制度と日常生活自立支援事業 ※確認テスト7
26		消費者保護、個人の権利、保健医療、貧困対策、生活困窮者支援に関する制度・施策
27		地域生活を支援する制度(育児・介護休業法他)
28	これからの社会福祉	多職種連携 地域連携 企業連携 ※確認テスト8
29		私たちにできること 自分の人生プラン
30	社会福祉のまとめ	期末考査

シラバスデータ		2023/4/1
科目名	老人福祉論 I	
年度	2025年度	授業の目的・ねらい
学科	総合福祉学科	超高齢社会において歴史、背景をもとに支援の基本的考え方を学ぶ。老人福祉法をはじめとする高齢者に対する関連諸制度と介護保障のための介護保険制度の実際について学ぶ。
学年	1年	
コース		授業全体の内容の概要
開講時期	後期	<ul style="list-style-type: none"> ・「老いる」とはどのようなことか理解し、現代社会の高齢者の特徴について学ぶ。 ・高齢者に対する関連諸制度について学ぶ。 ・介護保険制度設立の背景を学び、動向、改正の特徴、手続きや費用の流れについて理解する。
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	2単位	<ul style="list-style-type: none"> ①現代日本における高齢者の特性について学び、全人的な理解ができるようになる。 ②老人福祉法をはじめとする高齢者に対する関連諸制度を理解し、事業やサービス等の知識を身に付ける。 ③介護保険制度の目的や基本的枠組み、介護保険サービスの体系を理解し、サービス利用の手続きや費用の流れを説明できるようになる。
授業担当者	加藤 浩和	
実務家教員	○	特別養護老人ホーム、老人保健施設における介護福祉士としての実務経験
使用テキスト 参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・最新 介護福祉士養成講座 2 社会の理解(中央法規) ・見て覚える！介護福祉士国試ナビ 2024(中央法規) ・内閣府 高齢者白書 	
評価方法	受験資格:出席率80%以上 評価方法:定期試験、課題提出	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	授業説明 「老い」とは	講義内容、目的、講義の進め方、評価方法、課題提出 加齢による変化、老性自覚、高齢者の悩み
2	高齢者の生活実態	住居、所得、世帯、雇用・就労、介護需要、介護予防
3	高齢者を取り巻く社会環境	超高齢社会、独居、老々介護、ダブルケア、高齢者虐待、介護者離職
4	高齢者保健福祉の動向	高齢者保健福祉の歴史的背景
5		介護保険制度の下における高齢者保健福祉
6	高齢者の健康保持と社会参加	人生100年時代をどのように過ごしていくのか。自分の人生設計を立てる
7	高齢者保健福祉に関連する法体系	高齢者社会対策基本法と老人福祉法
8		高齢者の医療の確保に関する法律
9	介護保険制度	背景と目的、仕組み(保険者と被保険者、保険料、財源、保険給付)
10		仕組み(利用者負担、利用手続き、サービス、地域支援事業と地域ケアシステム)
11		組織団体の役割(国、都道府県、市町村、国民健康保険団体連合会、指定サービス事業者)
12		介護保険制度の動向、改正の特徴
13		介護保険の申請をしてみよう
14	高齢者の権利擁護	虐待の現状と防止に向けた支援
15	これからの高齢者福祉	死生観、終末期ケア

シラバスデータ		
科目名	障害者福祉論 I	
年度	2025年度	授業の目的・ねらい
学科	介護福祉学科	障害者と自立者、障害者の実態等の障害者福祉と、それらを支える法制度として障害者保健福祉制度について学ぶ。同時に、障害者政策をめぐる国際動向と、障害者権利条約について学ぶ。
学年	1年	
コース		授業全体の内容の概要
開講時期	後期	障害者と自立者といった概念の学習ではグループワークによる意見交換を重視し、障害者総合支援法や障害者権利条約といった法制度の学習では、座学を重視する。これらの切り替えを効率的に行うため、授業中の小休止を適宜取り入れる。
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	2単位	社会的差別に晒され易い障害に対する客観的かつ深い認識を持った福祉・介護職として利用者への支援を行うとともに、その支援の背景にある障害者福祉関係の法制度の概要を理解する。
授業担当者	石田麗	
使用テキスト 参考文献	最新 介護福祉士養成講座②『社会の理解』 適宜資料配布	
評価方法	授業態度(10点満点)・レポート内容(20点満点)・試験(70点満点)により以下の通り評価する。 A:80点以上、B:70～79点、C:60～69点、D:上記以外	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	オリエンテーション	・現代社会における障害者福祉を学ぶ視点
2	障害者制度と障害者基本法と理念	・障害者制度と障害者基本法
3		・障害者福祉の理念
4	障害者の定義 関連データ	・障害者の定義と関連データ(身体障害者・知的障害者・精神障害者)
5		・障害者の定義と関連データ(障害児・発達障害者・性同一性障害)
6	関連する法律や 障害者支援 シンボルマーク	・障害者差別解消法、就労に関する支援、障害者に関するシンボルマーク
7		・社会参加の促進、身体障害者社会参加支援施設
8	障害者総合支援法	・障害者支援と障害児支援の全体像、障害者総合支援法の理念と目的、利用者負担、自立支援医療
9		・支給申請からサービス利用までの流れ、支給決定のプロセス
10		・区分による利用可能サービスとその内容の一覧、日中活動と住まいの場の組み合わせ
11		・地域生活支援事業、障害児支援について、相談支援機関、基幹相談支援センター
12	障害者権利条約の 批准	・社会背景と障害者の状況、障害者権利条約
13	障害者差別解消法と 障害者雇用促進 法と障害者虐待防 止法	・障害者差別解消法の概要、障害者雇用促進法の概要
14		・障害者虐待防止法の概要、精神保健福祉法における入院制度
15	まとめ	・まとめ

シラバスデータ		
科目名	介護概論 I	
年度	2025年度	授業の目的・ねらい
学科	介護福祉学科	介護福祉の基本となる理念、介護の目的、機能、範囲を理解し、専門職業としての介護を理解する。また、介護実践に関連する諸制度を学び、利用者の尊厳を支える介護、自立に向けた介護、介護サービスを理解する。さらに、介護福祉の倫理とはを学び、介護福祉士の役割と機能を理解する。
学年	1年	
コース		授業全体の内容の概要
開講時期	通年	介護の意義と役割及び専門性について介護の歴史や関連法規を通して理解し、ノーマライゼーション、ICF、介護の倫理等から介護実践の基本姿勢について理解する。
授業回数	30回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	4単位	人間や社会を理解する視点から介護の専門性を理解し、利用者が安心して生きがいの持てる生活を営める生活環境を整えることが可能になり、危機管理、関係職種間の連携の在り方等が理解できるようになる。
授業担当者	山田 英介	
使用テキスト 参考文献	中央法規 最新 介護福祉士養成講座 3 介護の基本 I	
評価方法	出席率 授業態度 課題 試験	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	介護福祉士になるためには	「3領域」+4「医療的ケア」の説明
2	介護福祉士倫理綱領	介護福祉の理念と倫理。日本介護福祉士会が定める倫理綱領
3	普遍的倫理判断	倫理的判断が必要な場面における介護福祉士の対応
4	介護福祉士の機能	介護福祉士の「3つの機能」
5		介護福祉士業務の専門性の条件
6		介護の歴史と介護問題の背景
7		介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ
8	介護福祉の基本理念	尊厳を支える介護
9		自立に向けた介護
10	グループワーク	社会の中で活躍していたり、社会参加・活動をしている
11		高齢者や障害のある人の生活場面の例を挙げ、自立とは
12		何かについて話し合いを行う。
13	自立に向けた介護福祉のあり方	介護の視点とリハビリテーション
14		介護を必要とする人の理解
15		障害のある人の暮らしの理解

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
16	自立に向けた介護福祉のあり方	介護を必要とする人の生活環境
17	介護保険法とは	介護サービス(ケアマネージメント)
18		介護サービス(サービス提供の場)
19	介護福祉士の役割	介護実践における連携
20		介護事業者の倫理
21		安全の確保とリスクマネジメント
22		リスクの対策の実際
23		介護従事者の安全確保
24	グループワーク	<ul style="list-style-type: none"> ・多職種との連携関係図の作成。要介護者がいる家族に説明するシナリオを作成。
25		
26		<ul style="list-style-type: none"> ・実際にロールプレイを行い、観察者が評価する。
27		
28	社会資源の理解	<ul style="list-style-type: none"> ・社会資源とは何かを学ぶ
29		<ul style="list-style-type: none"> ・社会資源の開発についてのグループワーク
30		<ul style="list-style-type: none"> カード整理法を用いて社会資源をグループで見つけ出し発表する。

シラバスデータ		
科目名	介護概論Ⅱ	
年度	2025年度	授業の目的・ねらい
学科	介護福祉学科	1. 介護の目的、機能、範囲を理解し専門職業として介護を必要とする人の理解をする。2. 人間の発達と生活についての知識を持ち、介護を必要とする人の生活を支えるしくみについて学ぶ。3. 身体・精神の健康状態の変化に介護福祉士として対処できる能力を養い、同時に保健医療関係者および連携、協力の在り方について学ぶ。4. 病気や遭遇しやすい事故の知識を持ち、介護福祉士として対処する予防方法について学ぶ。
学年	2年	
コース	授業全体の内容の概要	
開講時期	通年	介護福祉士を取り巻く状況、介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ、介護従事者の倫理、介護における安全の確保とリスクマネジメント、介護従事者の安全など専門職業としての概念をもとに尊厳を支える介護、自立に向けた介護、介護を必要とする人の理解、介護サービス、介護実践における連携などの理解を徹視的に深める。
授業回数	30回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	4単位	1介護に関する知識と技術への理解を深める 2介護福祉士としての役割、責任を認識し、自身の介護観を確立できる 3介護福祉サービスの提供方法、多職種連携手段を判断できる
授業担当者	山田 英介	
使用テキスト 参考文献	介護の基本	
評価方法	受験資格:出席率80%以上 評価方法:定期試験 60点以上合格 59点以下不合格	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	介護福祉士の役割と機能、介護福祉の倫理	
2	高齢者のくらしの実際	加齢による心理的变化・精神的変化、活動性の低下
3	高齢者のくらしの実際	虚弱高齢者、健康管理
4	高齢者のくらしの実際	寝たきり高齢者・要因・合併症・介護
5	高齢者のくらしの実際	認知症高齢者の症状・コミュニケーション方法
6	高齢者のくらしの実際	認知症高齢者の不適応行動・精神症状・対応
7	障害のある人のくらしの理解	肢体不自由(運動機能障害)の医学的理解、生活
8	障害のある人のくらしの理解	脳性麻痺、関節リウマチ
9	障害のある人のくらしの理解	脊髄損傷、脳卒中
10	障害のある人のくらしの理解	高次脳機能障害、筋ジストロフィー
11	障害のある人のくらしの理解	筋萎縮側索硬化症、パーキンソン
12	障害のある人のくらしの理解	視覚障害の医学的理解、生活、介護
13	障害のある人のくらしの理解	聴覚障害の医学的理解、生活、介護
14	障害のある人のくらしの理解	心臓機能障害の医学的理解、生活、介護
15	障害のある人のくらしの理解	腎臓機能障害の医学的理解、生活、介護

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
16	障害のある人のくらしの理解	呼吸機能障害の医学的理解、生活、介護
17	障害のある人のくらしの理解	膀胱・直腸機能障害の医学的理解、生活、介護
18	障害のある人のくらしの理解	膀胱・直腸機能障害の医学的理解、生活、介護
19	障害のある人のくらしの理解	知的障害の医学的理解、生活、介護
20	障害のある人のくらしの理解	知的障害の医学的理解、生活、介護
21	障害のある人のくらしの理解	知的障害の医学的理解、生活、介護
22	障害のある人のくらしの理解	精神障害の医学的理解、生活、介護
23	障害のある人のくらしの理解	精神障害の医学的理解、生活、介護
24	障害のある人のくらしの理解	重複障害の基本的理解、生活、介護
25	高齢者・障害者の生活経営と管理	厚生年金・高齢者医療制度・介護保険法
26	高齢者・障害者の生活経営と管理	厚生年金・高齢者医療制度・介護保険法
27	高齢者・障害者の生活経営と管理	障害者年金・障害者医療制度・障害者自立支援法
28	保健医療者との連携	保健医療者との連携の仕組み
29	地域連携	地域連携の意義、地域包括支援センター・ボランティアの役割
30	地域連携	市町村・都道府県の機能と役割

シラバスデータ		
科目名	チームケア論	
年度	2025年度	授業の目的・ねらい
学科	介護福祉学科	協働する多職種の役割と機能を学ぶ。 介護における安全の確保とリスクマネジメントを学ぶ。 介護従事者の安全を考える。
学年	1年	
コース		授業全体の内容の概要
開講時期	1年次後期	ケアマネジメント、ケアプラン、ケースカンファレンスの意義、方法を学ぶ。事例をもとにケアプラン、ケースカンファレンス、ヒヤリハットをグループ学習から学ぶ。ケアマネジメント及び、ケアプランの流れと仕組みを通し、生活の場の特性や地域連携の在り方についての理解を深めるようになる。
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	2単位	チームとして利用者や集団のニーズを捉え介護方向を見出せる。ケアマネジメントの理解ができ、ケアプランと介護計画の関係性が理解できる。そのうえでの多職種連携の実践に利用者の生活を持続させる視点を養う。
授業担当者	隈本 つばさ	
使用テキスト 参考文献	適宜必要資料配布	
評価方法	出席率、授業態度、提出物、試験	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	多職種の種類と機能と役割の把握と理解	多職種連携・協働についての講義(多職種連携・協働とは。多職種連携・協働を要請する社会の動き等)
2	保健・医療・福祉職の機能と役割	連携の主となる社会福祉関係職種・医療関係職種の理解。
3	保健・医療・福祉職の機能と役割	前回の授業で社会福祉関係職種・医療関係職種を理解したうえで事例を個人で行う。
4	演習(グループワーク)	前回の事例をもとにグループワーク。
5	演習(グループワーク)	事例に基づきグループワーク続き。
6	多職種連携・協働に求められる基本的な能力	保健・医療・福祉職の役割・機能を理解したうえで、多様な視点と受容を必要とする協働を学ぶ。
7	社会参加と社会活動の実現に向けて	多職種連携・社会資源活用についてグループワーク。
8	社会参加と社会活動の実現に向けて	多職種連携・社会資源活用についてグループワーク。
9	社会参加と社会活動の実現に向けて	多職種連携・社会資源活用についてグループワーク。
10	総まとめ(発表)	多職種連携・社会資源活用についての発表。
11	総まとめ(発表)	多職種連携・社会資源活用についての発表。総まとめ講義。
12	リスクマネジメント	介護における安全の確保とリスクマネジメントを学ぶ。
13	介護従事者の安全を考える。	介護従事者の安全を考える。
14	総まとめ(発表)	多職種連携・社会資源活用についての発表。
15	総まとめ(発表)	多職種連携・社会資源活用についての発表。総まとめ講義。

シラバスデータ		
科目名	リハビリテーション論	
年度	2025年度	授業の目的・ねらい
学科	介護福祉学科	1. リハビリテーション、ノーマライゼーションの意義について理解する 2. 障がいの種別によるリハビリテーションの展開を理解する 3. 病院・施設・在宅リハビリテーション役割と連携について理解する
学年	1年	
コース		授業全体の内容の概要
開講時期	前期	1. リハビリテーションにおける尊厳を支える介護の考え方、自立に向けた介護展開方法を学ぶ 2. 福祉用具の意義と活用。実際のリハビリテーションにて使用する福祉用具を呈示し、支援方法を深める
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	2単位	1. 身体の各部位の構造が理解でき、適切なリハビリテーション方法が判断できる 2. リハビリテーションの制度について社会・地域との関わりを理解できる 3. 社会的自立に向けてのリハビリテーションのあり方を考察できる
授業担当者	荒木 絢子	
使用テキスト 参考文献	リハビリテーション論	
評価方法	受験資格:出席率80%以上 評価方法:定期試験 60点以上合格 59点以下不合格	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	リハビリテーションの理念と歴史の変遷	リハビリテーションの歴史や、根本的な意味、目的、考え方を学ぶ
2	ICDHとICF	ICDHとICFの歴史と、ICFの考え方を学ぶ
3	リハビリテーション領域とサービス	各職種によるリハビリテーションの領域を学ぶ
4	高齢化による機能障害とリハビリテーション	高齢による身体的・精神的変化とそれぞれの対応について
5	高齢化による機能障害とリハビリテーション	高齢による身体的・精神的変化とそれぞれの対応について
6	身体障がいによる機能障害とリハビリテーション	身体障害の分類や、身体の機能的変化、それぞれに対するリハビリテーションアプローチについて
7	身体障がいによる機能障害とリハビリテーション	身体障害の分類や、身体の機能的変化、それぞれに対するリハビリテーションアプローチについて
8	知的障がいとリハビリテーション	知的障害者に対するリハビリテーションアプローチ
9	精神障がいとリハビリテーション	精神障害者に対するリハビリテーションアプローチ
10	リハビリテーション介護と介護技術の基本	介護に対するリハビリテーションの視点とそれに対するアプローチ方法
11	福祉用具、住居の改造、福祉のまちづくり	福祉用具、住宅改修、まちづくりに対する考え方を学ぶ
12	地域リハビリテーション	暮らしやすさのための環境について学ぶ
13	リハビリテーションの立案・指導・チームアプローチ	リハビリテーションアプローチまでのプロセスを学ぶ
14	ICFの視点に基づいた利用者へのアセスメント	ICFを用いた実際のアセスメントについて学ぶ
15	事例に基づく自立支援と社会生活能力の維持・拡大に向けての援助	リハビリテーションアプローチの実際

シラバスデータ		
科目名	形態別コミュニケーション	
年度	2025年度	授業の目的・ねらい
学科	介護福祉学科	介護を必要とする人とのコミュニケーションを実践的に学ぶ。人間関係の形成・障害への支援的対応・情報授受や保管に関する文書記録の技術等、障害の特性に応じたコミュニケーション技術の必要性を学び、習得する。
学年	2年	
コース		授業全体の内容の概要
開講時期	通年	基本的なコミュニケーション方法を理解する。(手話・点字・実践演習) 利用者・家族に応じたコミュニケーション・態度を学ぶ。
授業回数	30回	介護におけるチームのコミュニケーションを学び、情報の共有化活用方法を理解する。 (1～10:手話 11～20:点字 21～30:実践演習)
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	4単位	介護従事者としての言葉と対応を意識し、実践できるようになる。 利用者・家族との信頼関係を築くことができる。 情報に応じた適切な共有方法を判断できる。
授業担当者	富口真佐志(手話) 隈本つばさ(点字) 山田英介(実践演習)	
使用テキスト 参考文献	コミュニケーション技術(中央法規)	
評価方法	・出欠状況 ・試験	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	挨拶表現	聴覚障害とは、手話の基礎・コミュニケーション手段
2	介護におけるコミュニケーションの基本	1年次の相談援助の基盤と専門職で学んだコミュニケーションの復習
3	聞こえるとは	耳の構造、役割、手話による自己紹介
4	コミュニケーション支援の基本	1年次の相談援助の基盤と専門職で学んだコミュニケーションの復習
5	疑問の表現	聴力レベル・補聴器、手話による疑問表現基礎
6	対象者の特性に応じたコミュニケーション	①コミュニケーションの基本 ②視覚障害のある人への支援(点字)
7	可能・否定	手話を活用した可能・否定の表現方法基礎
8	対象者の特性に応じたコミュニケーション	①聴覚障害のある人への支援 ②構音障害のある人への支援
9	手話表現留意点	ろうあ教育、接続に関する手話の基礎、手話表現留意事項
10	対象者の特性に応じたコミュニケーション	①失語症のある人への支援
11	労働問題	聴覚障害の方の労働環境、労働問題
12	対象者の特性に応じたコミュニケーション	①うつ病・抑うつ状態のある人への支援 ②統合失調症の人への支援
13	ろうあ協会	聴覚障害の方とのコミュニケーション、ろうあ協会について
14	対象者の特性に応じたコミュニケーション	①知的障害のある人への支援 ②発達障害のある人への支援
15	重複障害について	重複障害者が抱える問題とは、指文字基礎。

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
16	対象者の特性に応じたコミュニケーション	①高次脳機能障害のある人への支援 ②利用者家族との関係づくり
17	手話通訳の資格	手話表現の留意点、手話通訳の資格制度、聴覚障害者の願い
18	対象者の特性に応じたコミュニケーション	介護福祉職・多職種とのコミュニケーションの回り方(報告・連絡・相談、記録等)
19	日常生活留意点①	四季・各月のイベントを改めて学び、話題の拡張・日本の文化を学ぶ
20	日常生活留意点②	あいさつの重要性和あいさつの仕方について
21	自己開示 自己覚知	ジョハリの窓、バーステックの原則により受容・共感・傾聴の理解
22	表現方法について	「伝え方」と「伝わり方」の違いを学ぶ
23	心理的コミュニケーション	実習時に活用できる心理的コミュニケーションテクニック
24	事例について ロールプレイング①	事例や、今までの卒業生が実際に遭遇した場面を基に、適切・不適切な対応をロールプレイして学ぶ。
25	事例について ロールプレイング②	事例や、今までの卒業生が実際に遭遇した場面を基に、適切・不適切な対応をロールプレイして学ぶ。
26	記録の種類と方法	専門用語の確認、説明、常用漢字を改めて理解する。
27	記録の保存と整理	報告・連絡・相談(ほう・れん・そう)の重要性和確認、IT活用にて文章作成
28	インシデント アクシデントについて	「ヒヤリハット」について理解を深め、インシデント・アクシデントレポートの記録方法を学ぶ
29	ケアカンファレンスについて	カンファレンスの重要性・意義・目的について
30	形態別コミュニケーション	30コマで学んだことのまとめ

シラバスデータ		
科目名	生活支援技術(概論)	
年度	2025年度	授業の目的・ねらい
学科	介護福祉学科	尊厳の保持の観点からどのような状態であっても自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることを含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識を身に付ける。生活支援の基礎を理解する。
学年	1年	
コース		授業全体の内容の概要
開講時期	後期	利用者の生活を考え、生活支援のあり方を学ぶ。基本てきな介護技術に必要な知識を、その他の科目と結びつけながら学ぶ。
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	2単位	基本的な介護技術の理解。個別ケアの必要性を理解する。
授業担当者	隈本 つばさ 加藤 浩和	
使用テキスト 参考文献	生活支援技術Ⅰ・Ⅱ(中央法規・メジカルフレンド)	
評価方法	出席率、授業態度、提出物・課題評価、試験	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	科目概要、シラバスの説明など。
2	生活支援の基本的な考え方	介護者として、利用者の「生活」支援を行うための視点、自立支援の考え方の理解を深める。
3	自立に向けた睡眠の介護	1人ひとりの生活習慣の違い・個性を理解し、睡眠における利用者への対応方法について学ぶ。
4		ベッドメイキングについて学ぶ。
5	自立に向けた移動の介護	福祉用具の種類や福祉用具の活用方法について学ぶ。
6		利用者に合わせた移動介助方法を学ぶ。
7	自立に向けた着脱の介護	利用者の身体状況をアセスメントし、その利用者に合わせた介助方法や利用者の残存機能をいかにさせる介助方法を学ぶ。
8		寝たきりの利用者への介助方法を学ぶ。
9	自立に向けた身じたくの介護	人それぞれの生活習慣の理解や身じたくの必要性を学ぶ。
10		整容(洗顔・整髪・爪の手入れ・耳の手入れ・ひげ剃り・化粧など)の介助方法を学ぶ。
11	自立に向けた食事の介護	食事の意義・目的、食事介助方法について学ぶ。
12		利用者に合わせた食事形態や、治療食について学ぶ。
13	自立に向けた排泄の介護	排泄介助(トイレでの介助、ポータブルトイレでの介助、尿器・便器での介助・オムツ交換)について学ぶ。
14		排泄のメカニズム、尿失禁・便失禁等について学ぶ。
15	人生の最終段階における介護	利用者やそのご家族に対する支援について学ぶ。

シラバスデータ		
科目名	生活支援技術(住居)	
年度	2025年度	授業の目的・ねらい
学科	介護福祉学科	生活者の自立に向けた、快適で安全な住環境の整備に必要な知識と技術を身につける。
学年	2年	
コース		授業全体の内容の概要
開講時期	後期	自立に向けた、快適で安全な住居のあり方と、それを実現する技術と方法。
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	2単位	自立に向けた住環境の整備を理解し、実現できる。
授業担当者	外山 知徳	
使用テキスト 参考文献		
評価方法	出席状況、授業中に実施する課題の成績、テストの成績を基に評価する。	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	住生活を構成するカテゴリーと生活者の自立	住まいと役割について学ぶ
2	住環境をめぐる今日の諸問題	現代社会と求められる住環境について
3	環境共生住宅-省エネルギーと省資源	住要求の変化について
4	快適な室内環境と健康-明るさの測定	快適な室内環境を整備するための基本的事項をおさえる
5	住まいの安全-耐震構造・免震構造・制震構造	日常安全・災害に対する備えについて
6	地震防災-過去の地震に学ぶ	自然災害に対する予防と安全な避難について学ぶ
7	静岡県地震防災センターの見学	静岡県地震防災センターの見学
8	人間関係を含んだ生活空間-居場所づくりとアイデンティティ	家族と生活空間について
9	テリトリー形成能力	パーソナルスペース(個人空間)について
10	バリアフリーのチェックポイント	日本家屋の問題とバリアフリー
11	住み分けと住宅改修	介護保険制度で利用できる住宅改修・福祉用具
12	福祉のまちづくり:移動の介護とバリアフリー	地域包括ケアシステムについて
13	集住の諸形態	現代の集住の諸形態について
14	個室とユニットケア	プライベートスペース、パブリックスペースについて
15	テスト	後期試験の実施

科目名	生活支援技術(被服)	
年度	2025年度	授業の目的・ねらい
学科	介護福祉学科	すべての人が快適な衣生活を営むにはどうしたらよいかを学び、自立に向けた身支度の介護に繋げる。
学年	2年	
コース	—	授業全体の内容の概要
開講時期	前期	衣服の機能・素材の種類・素材の性能・購入・手入れの仕方・環境・資源に至るまで広い範囲で学習する。手芸作品を製作する。
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	2単位	衣服を着ているのは人間だけでなく、人間を特徴づけている文化の一つでもある。よりよい衣生活創造とはどういうことかを理解する。
授業担当者	伊藤 知圭子	
使用テキスト 参考文献	中央法規 介護福祉士国試ナビ	
評価方法	授業態度・出席状況・作品提出状況・レポートを総合的に評価する。	

コマシラバス

90分/コマ	テーマ	内容
1	オリエンテーション 被服の役割	被服の役割を考える
2	被服素材の種類と性能	被服はどのような素材なからできているのか、理解する
3	繊維の種類と特徴	被服の表示を調べ、品質を理解する
4	手縫いの基本	手縫いの基本を学ぶ
5	手縫い演習	エコバッグ製作と通して、手縫い、ボタン付け、スナップ付け、面ファスナー付け、ゴム通しを体験し学ぶ
6		
7	手縫い演習	
8		
9	和服の基礎知識	和服の基礎知識を学び、理解する
10	和服の実際	浴衣を使用し、和服のたたみ方、着付けを体験する
11	レクリエーションを 兼ねた手芸	介護現場で実際に使用されるお手玉を製作する
12		
13	被服の手入れ	汚れの落ちる仕組みを理解し、洗濯、染み抜き、漂白の方法を学ぶ
14	被服の手入れ	被服の仕上げ、保管方法を理解し、アイロンがけを体験する
15	まとめ	授業の振り返りを行い、学びの定着を図る

科目名	生活支援技術(調理)	
年度	2025年度	授業の目的・ねらい
学科	介護福祉学科	高齢者の状況、及び介護士自身にあった栄養と調理について専門的知識・技術を身につけ、利用者の身体と心の健康づくりに役立て、潤いある充実した食生活を創造できる力を育む。自立に向けた家事の介護を学ぶ。
学年	2年	
コース	—	授業全体の内容の概要
開講時期	後期	高齢者の状況、及び介護士自身にあった栄養と調理について理解し、「食」が楽しみや満足感など、利用者の生活に潤いを与える自立に向けた家事と生活支援者としての重要性を学ぶ
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	2単位	食文化や食生活の変化をはじめ、介護士が職の支援をするうえで必要知識を養う
授業担当者	伊藤 知圭子	
使用テキスト 参考文献	中央法規 介護福祉士国試ナビ	
評価方法	授業態度・出席状況・作品提出状況・レポートを総合的に評価する。	

コマシラバス

90分/コマ	テーマ	内容
1	オリエンテーション 長事の意義と目的	食生活の意義と栄養についての基礎知識の確認
2	栄養の理解	5大栄養素を理解する
3	献立の立て方	食事バランスガイドを活用し、献立作成の手順を学ぶ
4	調理の基礎知識	調理実習に向け、調理に関する基礎知識を確認する
5	調理実習	様々な調理器具、加熱器具を扱うことで、決められた時間内に調理をする工夫を身につける 電子レンジを活用した調理を経験する
6		
7	高齢者の食事と調理実習	高齢者の食に関する身体的特徴と支援のあり方を学び、食品・調理形態・味付けによる高齢者への配慮を理解し、調理実習を通して身につける
8		
9	調理実習	バッククッキングを活用し、災害時等多様な調理の工夫を身につける
10		
11	食生活に関する施策 食中毒の防止	健康を守るための取り組みを学び、食品を安全においしく食べる知識を身につける
12	楽しい食事の演出	おいしい食べ物をよりおいしく食べるために、食空間を演出する工夫を学ぶ
13	調理実習	高齢者へ配慮した、食品・調理形態・味付けで調理する工夫を、献立を作成し、調理実習を通して身につける
14		
15	まとめ	授業の振り返りを行い、学びの定着を図る

シラバスデータ		
科目名	生活支援技術 I (介護)	
年度	2025年度	授業の目的・ねらい
学科	介護福祉学科	尊厳の保持の観点からどのような状態であっても自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることを含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識を身につける。障害や疾病とともに生活する人を支えるための技術、知識、用具の活用の仕方身につける
学年	1年	
コース	授業全体の内容の概要	
開講時期	通年	介護過程 I IIに基づき、利用者1人ひとりにあった介護技術を考え、実践につなげる。障害の理解で学んだことを活かし、具体的な支援内容、支援方法について学ぶ。
授業回数	30回	
授業形態	実習	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	4単位	・尊厳の保持や自立支援を尊重し、適切な介護技術を用いて安全に援助出来る技術、知識を身につける。 ・障害の特性を理解し、利用者の状態に応じた生活支援技術を身につける。
授業担当者	隈本 つばさ 加藤 浩和	
使用テキスト 参考文献	生活支援技術 I・II・III(中央法規・メジカルフレンド)、適宜必要資料配布	
評価方法	出席率、授業態度、提出物・課題評価、試験	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	科目概要、シラバスの説明など。
2	介護における自立支援の考え方	人間の尊厳のとらえ方と自立支援について、日本国憲法も含め学ぶ。個別性・個性の尊重について、ワークを使い学ぶ。
3		生活支援の基本的視点・考え方について学ぶ。ICF・ICIDHについても学ぶ。
4	自立に向けた睡眠の介護	実習室の使い方から、睡眠についての学習と居室整備・ベッドメイキングの実技。
5		ベッドメイキングの実技。
6		ベッドメイキングの実技。
7		ベッドメイキングの実技。
8		ベッドメイキングの実習を終えて、実技試験。
9	自立に向けた移動の介護	移動について・ボディメカニクス・体位変換について学ぶ。実際に体位変換を実践する。
10		
11		歩行介助について学ぶ。歩行介助に必要な福祉用具に関しても学ぶ。
12		車いす介助について学ぶ。
13	まとめ	12回までのまとめ試験を行う。
14	自立に向けた着脱の介護	着脱の意義・目的について。介助方法を学ぶ。座位の利用者様に対しての着脱介助の実践。
15		座位の利用者様に対しての着脱介助の実践。

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
16	自立に向けた着脱の介護	ベッド臥床している利用者様に対しての着脱介助の実践。
17		ベッド臥床している利用者様に対しての着脱介助の実践。
18	自立に向けた身じたくの介護	身じたくの目的・整容(洗顔・耳の手入れ・整髪・ひげ剃り・爪の手入れ・化粧)の介護技術について学ぶ。
19		
20	自立に向けた食事の介護	食事介助をうける利用者様を体験する。
21		前回の授業を参考に、食事介助のポイントを学ぶ。また、食事後の口腔ケアについても学ぶ。
22	自立に向けた排泄の介護	排泄の介護に関するポイント・尿便失禁についての学び・排泄介助のフローチャートからの利用者様に合わせた排泄介助について学ぶ。
23		トイレでの排泄介助について学ぶ。
24		ポータブルトイレ・尿器・便器での排泄介助について学ぶ。
25		おむつ交換について学ぶ。
26		自立に向けた排泄の介護で学んだ介助を実践する。
27	人生の最終段階における介護	人生の最終段階の意義や介護の役割・人生の最終段階における介護について学ぶ。
28	試験に向けてまとめ	これまでの授業の要点や、過去問も用いて復習をする。
29		
30	試験	

シラバスデータ		
科目名	生活支援技術Ⅱ(介護)	
年度	2025年度	授業の目的・ねらい
学科	介護福祉学科	尊厳の保持の観点からどのような状態であっても自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることを含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識を身につける。障害の特性を理解し、その方の状態・状況に応じた生活支援技術を身につける。
学年	2年	
コース		授業全体の内容の概要
開講時期	前期	介護過程ⅠⅡに基づき、利用者1人ひとりにあった介護技術を考え、実践につなげる。障害の理解で学んだことを活かし、具体的な支援内容、支援方法について学ぶ。
授業回数	15回	
授業形態	講義、実習	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	2単位	・尊厳の保持や自立支援を尊重し、適切な介護技術を用いて安全に援助出来る技術、知識を身につける。 ・障害の特性を理解し、利用者の状態に応じた生活支援技術を身につける。
授業担当者	加藤 浩和 隈本 つばさ	
使用テキスト 参考文献	生活支援技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(中央法規・メジカルフレンド)、適宜必要資料配布	
評価方法	出席率、授業態度、提出物・課題評価、試験	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	科目概要、シラバスの説明、利用者の状態・状況に応じた生活支援技術について
2	障害に応じた生活支援技術	肢体不自由に応じた介護・視覚障害に応じた介護
3	障害に応じた生活支援技術	聴覚・言語障害に応じた介護・重複障害(盲ろう)に応じた介護
4	障害に応じた生活支援技術	【内部障害】心臓機能障害に応じた介護・呼吸器機能障害に応じた介護
5	障害に応じた生活支援技術	【内部障害】腎臓機能障害に応じた介護・膀胱・直腸機能障害に応じた介護
6	障害に応じた生活支援技術	【内部障害】小腸機能障害に応じた介護、HIVにより免疫機能障害に応じた介護
7	自立に向けた入浴の介助	入浴の意義・目的や、入浴介助について学ぶ(男性一般浴)、清拭の意義・目的や、介助方法を学ぶ(女性清拭)
8		入浴の意義・目的や、入浴介助について学ぶ(女性一般浴)、清拭の意義・目的や、介助方法を学ぶ(男性清拭)
9	障害に応じた生活支援技術	【内部障害】肝臓機能障害に応じた介護 重症心身障害に応じた介護
10	障害に応じた生活支援技術	知的障害に応じた介護、精神障害に応じた介護
11	障害に応じた生活支援技術	高次脳機能障害に応じた介護、発達障害に応じた介護
12	障害に応じた生活支援技術	【難病】筋萎縮性側索硬化症(ALS)に応じた介護、パーキンソン病に応じた介護
13	障害に応じた生活支援技術	【難病】悪性関節リウマチに応じた介護、筋ジストロフィーに応じた介護
14	第4期実習に向けて介護技術の確認	第3期実習先での技術方法の情報交換をふまえ、各グループごと技術の確認、実践。
15	テスト	障害に応じた生活支援技術についてのテスト

シラバスデータ		
科目名	レクリエーション論	
年度	2025年度	授業の目的・ねらい
学科	介護福祉学科	1 レクリエーションの手段と主旨を理解する 2 レクリエーション支援の目的と方法を理解する 3 レクリエーション・インストラクターの役割を理解する
学年	1年	
コース		授業全体の内容の概要
開講時期	後期	「レクリエーションの概論」「楽しさと心の健康作りの理論」「レクリエーションの支援理論」「レクリエーション支援のプログラム」を、それぞれの学科の特性に合わせた理解。レクリエーション活動の楽しさを感じる心の仕組みと、その仕組みを根拠とした支援。ライフステージごとの心の元気作りとともに、地域とのきずな作り。信頼関係が築かれる心理的な仕組みと、コミュニケーション技術。自主的、主体的に楽しむ力を育む活動の展開と、動機付けの心理的仕組みの理解。
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	2単位	1 レクリエーションの意義と目的、インストラクターとしての姿勢と役割を理解する。 2 レクリエーションにおけるリスクマネジメントを踏まえた視点を養い、プログラムの立案ができる
授業担当者	和久田 一夫	
使用テキスト 参考文献	随時プリント配布	
評価方法	授業態度、出席率、課題提出、試験の総合、評価	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	授業・実践のガイダンス	授業概要について。
2	レクリエーション支援とは、レクリエーション・インストラクターの役割とは	レクリエーション支援と、レクリエーション・インストラクターのかかわりについて。
3	楽しさを通じた心の元気づくり、対象者の心理面への理解	介護者と対象者のかかわり、心理面への働きかけについて。
4	活動そのものの楽しさを感じるこころの仕組み、こころの仕組みを根拠とした支援の在り方	介護者と対象者のかかわり、心理面への働きかけについて。活動内容例をもとに理解。
5	ライフステージに応じたこころの元気づくり	対象者に合わせたレクリエーションの違いについて。
6	子ども、高齢者、障害者を支える地域の絆とレクリエーション	レクリエーションの地域領域・地域のコミュニティ推進について。
7	対象者との信頼関係の構築とホスピタリティ	レクリエーションにおける信頼関係構築の心得について。
8	レクリエーション支援におけるコミュニケーション技術	レクリエーション支援におけるコミュニケーション技術について。
9	レクリエーション活動を通じた良好な集団作りと、集団内でのコミュニケーションの促進	集団でのレクリエーションについて。

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
10	自主的・主体的にレクリエーション活動を楽しむ支援のための、やる気が生じるこころの仕組み	やる気に応じたスプレッドについて。
11	成功体験に導く支援と、成功体験を支え合う対象者同士のかかわり合い	成功体験に導く支援によって、対象者にある効果について。
12	支援計画書の考え方、作成	2年次に向け、支援計画について学ぶ。
13	事業の展開(魅力ある行事を考える)	レクリエーション事業について。
14	事業を展開する(行事をつくるプロセス)	レクリエーション事業について。
15	まとめ・試験	レクリエーション論のまとめ・後期試験の実施。

シラバスデータ		
科目名	レクリエーション援助活動法	
年度	2025年度	授業の目的・ねらい
学科	介護福祉学科	高齢化社会の中で、人間らしく人生を全うするとは、生活支援とはどのようなことかの理解
学年	2年	
コース		授業全体の内容の概要
開講時期	前期	レクリエーション基礎理論及び人間の尊厳とは何かの援助論・演習を基本とする
授業回数	30回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	4単位	人間にとって、人生を全うするための明日につながる楽しみとはなんなのかの理解
授業担当者	和久田 一夫	
使用テキスト 参考文献	レクリエーション活動援助法(中央法規)福祉レクリエーション援助の方法(中央法規)福祉レクリエーション総論(中央法規)福祉レクリエーション援助の実際(中央法規)福祉施設におけるレクリエーション援助のあり方	
評価方法	援助演習実技評価 筆記試験 レクリエーション援助案評価	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	レクリエーション基礎理論	レクリエーションが生活全般の援助・支援の視点が必要であるという理解。
2	福祉レクリエーション基礎理論	福祉レクリエーション支援の特徴の理解。
3	コミュニケーションワークとホスピタリティーの理解	もてなしの意識を持ちながら、参加者の立場に立って対応することの理解。
4	レクリエーション援助の理念	レクリエーションが参加者にもたらすものの理解。
5	レクリエーション財の理解	レクリエーション財に必要な知識の習得。
6	アレンジ法の理解	レクリエーション財に必要な知識の習得。さらにアレンジの仕方をフォロー。
7	対象者の生活及び心理的欲求理解	人間の心理について。
8	ICFとレクリエーションの理解	ICF理論の裏付けのレクリエーション支援について。
9	生活自立を目指したリハビリ指向レクリエーション援助の理解	レクリエーションとリハビリテーションのつながりについて。
10	レクリエーション援助プロセス	レクリエーション援助プロセスについて。
11	尊厳とレクリエーション援助の実際	尊厳とレクリエーション援助の実際について。
12	事業の企画・運営の基礎	事業の企画・運営の基礎について理解し、実施に活かす。
13	安全と評価	安全と評価の項目について理解。
14	高齢者施設におけるレクリエーション援助のあり方	高齢者に対するレクリエーション援助方法の理解。
15	レクリエーション援助案作成	実施計画案作成。

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
16	レクリエーション援助演習	個別でレクリエーションの実施。
17	レクリエーション援助演習	個別でレクリエーションの実施。
18	レクリエーション援助演習	個別でレクリエーションの実施。
19	レクリエーション援助演習	個別でレクリエーションの実施。
20	レクリエーション援助演習	個別でレクリエーションの実施。
21	レクリエーション援助演習	個別でレクリエーションの実施。
22	レクリエーション援助演習	個別でレクリエーションの実施。
23	レクリエーション援助演習	個別でレクリエーションの実施。
24	レクリエーション援助演習	個別でレクリエーションの実施。
25	レクリエーション援助演習	個別でレクリエーションの実施。
26	レクリエーション援助演習	個別でレクリエーションの実施。
27	レクリエーション援助演習総括	レクリエーション援助演習総括
28	レクリエーション援助Q&A	レクリエーション援助実践を終えての質疑応答。
29	コミュニケーションワークQ&A	レクリエーション援助実践を終えての質疑応答。
30	筆記試験	前期試験の実施

シラバスデータ		
科目名	介護過程 I	
年度	2025年度	授業の目的・ねらい
学科	介護福祉学科	介護過程の意義と基礎的理解を学ぶ。介護計画の意義を考え、個別性・尊厳・倫理に基づいた介護過程の展開ができるよう、基本的な介護過程の構成、ICFに対する理解を深める。
学年	1年	
コース		授業全体の内容の概要
開講時期	通年	各教科で学んだ知識や技法、技術を統合し、個別の生活課題に向かい合える能力を養う。個別のニーズ、課題を明確化し、潜在能力を引き出すためのアセスメントを行い、自立支援に沿った介護計画の在り方について理解を深める。
授業回数	45回	
授業形態	講義・演習	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	6単位	アセスメント、立案、実施、評価の展開を理解し、多職種協働によるチームアプローチの重要性を理解する。介護過程の理論と実習体験を関連づけながら、来年度の介護計画実習への能力が養われる。
授業担当者	石田 麗	
使用テキスト 参考文献	中央法規 介護福祉士養成講座9 介護過程 第2版 ・ 適宜必要資料配布	
評価方法	授業態度(10点満点)・課題内容(20点満点)・試験(70点満点)により以下の通り評価する。 A:80点以上、B:70～79点、C:60～69点、D:上記以外	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	ガイダンス	・シラバス説明。 ・利用者への声かけと利用者に必要な具体的な支援方法の考え方
2	介護過程の必要性	・日本介護福祉士会が提示する介護福祉士の専門性を基に必要性
3		・日本介護福祉士会が提示する介護福祉士会倫理綱領 ・日本の福祉の歴史について
4	介護過程とは	・課題解決に向けての思考と実践の過程であることを「課題」「目標」「目的」の違いを理解し、具体的に考える
5		・目標志向型アプローチの検討の必要性
6	介護過程の構成要素①アセスメント	・情報収集とは
7		・ICFとICIDHの移り変わりとICFを活用する理由
8		・情報をICFに振り分けるワーク ・情報の解釈・関連付け・統合化について(ニーズの意味を考えるワーク)
9		・前回に引き続きニーズの意味を考えるワークからニーズを導き出すワーク ・ICFに落とした情報同士の関連付け方を学び、生活上の課題とは何か
10		・ニーズの優先順位について(マズローの欲求段階層説を基に学ぶ) ・介護計画の立案について(介護目標とは何か)
11	介護過程の構成要素②計画の立案(目標)(具体策の決定)	・目的、目標、手段を理解し、ニーズを充足するための目標・手段を設定するワーク ・具体的な支援内容・支援方法とは何か
12	介護過程の構成要素③実施④評価	・具体策から実施の実際 ・評価の4つの視点
13	介護過程の構成要素①アセスメント～②計画立案 ワーク	・アセスメントの実際(ニーズの明確化)

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
14	介護過程の構成要素 ①アセスメント～② 計画立案 ワーク 介護過程構成に関する 確認テスト	・グループワーク結果の共有 ・第1期実習で観た「活動」と「参加」の促進と制限についての明確化
15	復習(15コマ分)	・介護過程の構成要素に関する確認テスト実施 ・グループワーク 確認テスト直しと情報共有
16	復習(15コマ分) 展開の基本視点	・解説と内容確認(到達度把握) ・8つの基本視点
17	展開の基本視点	・ICFに基づく利用者像の把握・尊厳を守るケアの実施・生活と人生の継続性の尊重・生きがいや役割のある生活・個別ケアの実践
18		・生活の自立支援・多職種協働・連携・根拠に基づく介護実践と的確な記録
19		・介護過程とケアマネジメントの関係性
20		・介護過程とケアマネジメントの関係性についての事例検討(GW)
21	アセスメント・立案攻 略	・介護過程の展開過程の復習 ・アセスメント(情報収集・情報の分析・関連付け・統合化)の実際
22		・介護過程の展開過程の復習 ・アセスメント(情報収集・情報の分析・関連付け・統合化)の実際
23	事例展開	・グループワークで事例で介護過程の展開を行う(グループスーパービジョンの実施)
24		・課題『事例展開』:評価対象課題(要提出)
25	事例展開解説	・課題として事例展開した内容に対して解説と自己修正
26	実施・評価攻略	・介護過程の展開の中の実施と評価の内容について
27	普遍的生命倫理原 則	・介護倫理の実践と尊厳ある介護実践について
28		・高齢者の身体拘束・虐待事例から普遍的生命倫理原則を用いた「倫理的判断」と「倫理に基づく介護の在り方」のグループワーク
29	アセスメントの実際 (情報収集)	・グループワークにてアセスメントシート①の情報収集を行う アセスメントシート①の書き方を確認
30	考察について	・第2期実習に向けて、記録の書き方についての確認。(考察の書き方について)
31	○第2期を終えて 支援技術の確認	・第2期実習で行った生活支援技術の内容を振り返り、活動や参加に結びつけ、促進する要因と制限してしまっている要因を考える。(チェックリストと振り返り込み) ・第2期実習で行った生活支援技術の内容を振り返り、活動や参加に結びつけ、促進する要因と制限してしまっている要因を考える。 (チェックリストと振り返り込み) ・第2期実習で作成したアセスメントシート①から事例作成に入る
32	○第2期を終えて 事例作成①	
33	事例作成②	・個人ワーク 事例作成→提出(評価対象課題)
34		・情報収集のポイントについて(提出した事例を使用)
35	福祉の基本をみつめ る	・クリスマスキャロルを見て、幸福と福祉の違いを再確認する。

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
36	事例作成③	・グループワーク 事例作成
37		・グループワーク 事例作成
38	事例作成④	・グループワーク 事例作成
39		・グループワーク 事例作成
40	事例作成⑤	・グループワーク 事例作成
41		・グループワーク 事例作成 → グループで1部提出して終了
42	まとめ①	・展開の基本視点の振り返りと活かし方
43	まとめ②	・アセスメント攻略法についての振り返り
44	まとめ③	・実施・評価攻略法についての振り返り
45	試験	

シラバスデータ		
科目名	介護過程Ⅱ	
年度	2025年度	授業の目的・ねらい
学科	介護福祉学科	「介護過程Ⅰ」で学んだ介護過程をもとに、実際に様式を活用して展開できることを目的とする。 介護過程の展開により作成した介護計画は、対象者を中心に据え、QOLを高めるものであること。 さらに、他職種との連携を伴うチームアプローチができるものであること。
学年	2年	
コース		授業全体の内容の概要
開講時期	通年	1. 介護過程の構成要素や展開のしかたについて説明することができる。 2. 所定の介護過程の様式を使って、介護過程を展開することができる。 3. 利用者を中心に据え、利用者の尊厳、QOLを目指した介護計画の重要性が理解できる。 4. 他職種協働のチームアプローチの重要性が理解できる。
授業回数	30回	
授業形態	講義・演習	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	4単位	利用者理解を図り、情報収集を行い、分析、解釈に基づき介護内容や方法を計画できるようになる。 学んだ知識や技術を統合させ、応用させながら個人に適した計画が立案できるようになる。
授業担当者	加藤 浩和	
使用テキスト 参考文献	新 介護福祉士養成講座 第3版 9 介護過程	
評価方法	出席率、授業態度、課題、試験	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	介護過程Ⅰ復習	介護過程の道筋の理解
2		ケアプランと介護計画の違いについての理解
3	作成事例検討1	第2期実習における情報収集から介護計画立案(個人ワーク)
4		介護計画立案をグループで共有。グループで介護計画を作成
5	作成事例検討2	・事例のアセスメント。アセスメントシート①②③、ICF(個人ワーク)
6		・個人ワークで情報分析から介護計画立案
7		・グループ内共有・評価。・再検討・報告・提出
8	介護過程展開に向けて	評価についての理解・実習使用書式の説明
9	第3期実習振り返り	・第3期実習で作成した介護計画書の振り返り。自分の特徴の理解を深める
10	作成事例検討3	・情報分析から介護計画立案
11		・グループ内共有・評価
12		・再検討・報告・提出
13	作成事例検討4	・情報分析から介護計画立案
14		・グループ内共有・評価
15		・再検討・報告・提出

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
16	作成事例検討5	・情報分析から介護計画立案
17		・グループ内共有・評価
18		・再検討・報告・提出
19	振り返り	第4期実習における介護計画振り返り、自分の特徴の理解を深める
20	介護過程の展開の見直し	・再立案(見直し)
21		・再立案、グループで共有
22		・意見交換・報告
23		・発表
24	第3期、第4期 実習振り返り	・介護計画の再立案を別グループと共有
25		・グループ内評価、再立案
26		・報告・提出
27	国試対策	国試対策(過去問・解説)
28		
29		
30	まとめ	振り返り(介護過程とは・・・レポート作成)

シラバスデータ		
科目名	介護総合演習 I	
年度	2025年度	授業の目的・ねらい
学科	介護福祉学科	介護実習を行ううえでの介護福祉士としての心構え、社会人としてのマナーを理解し、利用者の個別性を尊重した介護実践に発展できる能力を養う。知識と技術の統合を目指す。
学年	1年	
コース		授業全体の内容の概要
開講時期	通年	尊厳や、自立、権利や価値、生活状況を持っている利用者。学内での学びを統合し、実際の場面に適応できる柔軟性や、応用力、判断力が求められると同時に、介護場面で遭遇した課題を解決するための主体的な行動力を身につけられるようにする。
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	1単位	様々な角度からの思考力、根拠に基づいた介護実践、体験を融合する必要性を理解し、介護福祉士の在り方について理解できるようになる。
授業担当者	隈本つばさ 山田 英介 加藤浩和	
使用テキスト 参考文献	中央法規 最新 介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習	
評価方法	・出席率・授業態度・提出物・実習評価	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	ガイダンス	介護実習 I について。グループワーク「介護実習 I で習得したいもの」
2	実習準備	個人票・目標・事前学習、レポート作成
3		
4		
5		
6	事前学習	コミュニケーション技術について
7	振り返り	振り返りシートを用いてグループワーク
8	実習準備	個人票・目標・事前学習、レポート作成
9		
10		
11		
12	事前学習	生活支援技術の実践について
13	振り返り	振り返りシートを用いてグループワーク
14	まとめ	介護福祉士のあり方について。グループワーク。発表。
15		

シラバスデータ		
科目名	介護総合演習Ⅱ	
年度	2025年度	授業の目的・ねらい
学科	介護福祉学科	介護福祉士としての自覚を促し、専門職に求められる資質や課題把握等、総合的対応能力を習得できる。客観的な事実の必要性を理解し、適切な記録方法を習得する。介護実践の科学的探究を目指す。
学年	2年	
コース		授業全体の内容の概要
開講時期	通年	実習との組み合わせにより、個別の到達目標を見据えた総合的な学習。
授業回数	45回	
授業形態	演習	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	3単位	技術・知識を介護実践に応用でき、自立支援の観点から介護過程の展開が図れる。それぞれのテーマに沿った研究的な考察ができる。介護実習Ⅰを振り返り、自己の課題や学習内容を言語化・明確化できる。ケアスタディ発表会に向けた業者・介護福祉学科との打ち合わせ等の共同作業を、学生主体で行い、介護分野の学習の集大成とする。
授業担当者	隈本つばさ 山田 英介 加藤浩和	
使用テキスト 参考文献	随時プリント配布	
評価方法		
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	実習概要	実習Ⅱ 目的・意義、第3期実習先の決定
2	書類準備	第3期実習準備(個人票、評価表、出席票)
3	書類準備	第3期実習準備(個人票、評価表、出席票)
4	振り返り	実習Ⅰでの経験を踏まえた専門職としての役割・職業倫理、対象者様を具体的に挙げる
5	振り返り	実習Ⅰでの経験を踏まえた専門職としての役割・職業倫理、対象者様を具体的に挙げる
6	記録	実習Ⅱに向けての心構え、実習の進め方(記録用紙の配布)
7	記録	実習Ⅱに向けての心構え、実習の進め方(記録用紙の配布)
8	記録	記録の必要性・重要性、プロセスレコードの再学習
9	記録	記録の必要性・重要性、プロセスレコードの再学習
10	記録	観察の視点、実習記録の書き方、実習中の留意点
11	壮行会	第3期実習に向けての説明会(総合福祉学科と合同授業)、壮行会
12	実習概要	第4期実習先の決定、実習準備(個人票、評価表、出席票)
13	個別面談	第3実習での評価に対する個別面談
14	振り返り	第3期実習の振り返り、報告のまとめ
15	振り返り	第3期実習の報告会

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
16	振り返り	介護過程の意義の再確認、3期実習で困ったことなどグループワーク
17	振り返り	第3実習を基に、自身の行ったケースについての振り返り
18	振り返り	第3実習を基に、自身の行ったケースについての振り返り
19	記録	第4期実習に向けての心構え、実習の進め方(記録用紙の配布)
20	記録	第4期実習での対象者様についての事前学習
21	記録	第4期実習での対象者様についての事前学習
22	報告会	第4期実習の振り返り、まとめと報告会
23	報告会	第4期実習の振り返り、まとめと報告会
24	ケアスタに向けて	ケアスタディ発表会に向け、クラス内での役割分担を話し合う。研究課題を確定と指導教員の決定、必要文献などの準備を開始する。
25	ケアスタに向けて	ケアスタディ発表に向けた準備(ケアスタ委員、各担当者は随時打ち合わせを行う)
26	ケアスタに向けて	ケアスタディ発表に向けた準備(ケアスタ委員、各担当者は随時打ち合わせを行う)
27	ケアスタに向けて	ケアスタディ発表に向けた準備(ケアスタ委員、各担当者は随時打ち合わせを行う)
28	ケアスタに向けて	ケアスタディ発表に向けた準備(ケアスタ委員、各担当者は随時打ち合わせを行う)
29	ケアスタに向けて	ケアスタディ発表に向けた準備、冊子やプログラムの作成、松本印刷との打ち合わせ
30	ケアスタに向けて	ケアスタディ発表に向けた準備、冊子やプログラムの作成、松本印刷との打ち合わせ
31	ケアスタに向けて	ケアスタディ発表に向けた準備、冊子やプログラムの作成、松本印刷との打ち合わせ
32	ケアスタに向けて	ケアスタディ発表に向けた準備、冊子やプログラムの作成、松本印刷との打ち合わせ
33	ケアスタに向けて	ケアスタディ発表に向けた準備、冊子やプログラムの作成、松本印刷との打ち合わせ
34	ケアスタに向けて	ケアスタディ発表に向けた準備、冊子やプログラムの作成、松本印刷との打ち合わせ
35	ケアスタに向けて	ケアスタディ発表に向けた準備、冊子やプログラムの作成、松本印刷との打ち合わせ
36	ケアスタに向けて	ケアスタディ発表に向けた準備、冊子やプログラムの作成、松本印刷との打ち合わせ
37	ケアスタに向けて	ケアスタディ発表に向けた準備、冊子やプログラムの作成、松本印刷との打ち合わせ
38	ケアスタに向けて	ケアスタディ発表に向けた準備、冊子やプログラムの作成、松本印刷との打ち合わせ
39	ケアスタに向けて	ケアスタディ発表に向けた準備、冊子やプログラムの作成、松本印刷との打ち合わせ
40	ケアスタ発表会	ケアスタディ発表会

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
41	ケアスタ発表会	ケアスタディ発表会
42	ケアスタ発表会	ケアスタディ発表会
43	ケアスタ発表会	ケアスタディ発表会
44	ケアスタ発表会	ケアスタディ発表会
45	ケアスタ発表会	ケアスタディ発表会

シラバスデータ		
科目名	介護実習 I	
年度	2025年度	授業の目的・ねらい
学科	介護福祉学科	さまざまな生活の場における個人の生活を理解したうえで、個別ケアを考え、コミュニケーションの実施、他職種協働を通じ介護福祉士としての役割について理解する。地域における生活支援の実践を通して学ぶ。
学年	1年	
コース		授業全体の内容の概要
開講時期	後期	1. 多様な介護現場による見学・観察実習をする。 2. 基本的なコミュニケーション、介護技術を見学・補助・実践する。
授業回数	15日間	
授業形態	実習	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	3単位	1. 各施設の理念・特徴、機能、役割を知る 2. 利用者の生活の実際を理解する 3. 基本的なコミュニケーション技法を理解する 4. 基本的な介護技術を理解する 5. 介護現場における職種と役割を理解する
授業担当者	隈本つばさ 山田 英介 加藤浩和	
使用テキスト 参考文献		
評価方法	実習評価表にもとに事前事後指導・巡回指導、実習先の評価など総合的に判断する。	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
	介護現場実習	<p>1. 第1期実習(9月)下記の施設1日1～2ヶ所の組み合わせで5日間実習をする 実習施設の理念、特色、業務を理解する 介護場面におけるコミュニケーション、介護技術を見学・補助する 利用者とのコミュニケーションを図る 実習先 (1) 介護老人福祉施設・介護老人福祉施設(ユニット) (2) 介護老人保健施設 (3) ケアハウス (5) サテライト型居住施設 (6) 認知症対応型共同生活介護 (7) 障害者支援施設 (8) 救護施設</p> <p>2. 第2期実習(1月)下記の施設1ヶ所にて10日間の施設実習をする 実習施設の理念、特色、業務を理解する 利用者を支える職種と連携場面に見学・参加する 介護場面におけるコミュニケーション、介護技術を見学・補助・実践と段階を経て行う 利用者とのコミュニケーションを深め、利用者に応じた介護を展開する 実習先 (1) 介護老人福祉施設 (2) 介護老人保健施設 (3) 障害者支援施設 (4) 救護施設</p>

シラバスデータ		
科目名	介護実習Ⅱ	
年度	2025年度	授業の目的・ねらい
学科	介護福祉学科	介護過程の実践的展開を行うために個々の生活レベルや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を学習とする。自己の技術・知識・態度の振り返り、人間と介護の本質を認識・追求しながらチームの一員として介護を展開する能力を養う。
学年	2年	
コース		授業全体の内容の概要
開講時期	通年	基本的なコミュニケーション、介護技術を補助・実践する。利用者の生活習慣や価値観を把握し、介護計画の立案・実践・評価を学ぶ。夜勤・レクリエーションを実施する。多職種と連携して介護を展開する。介護過程の実践的展開ができる。
授業回数	45日間	
授業形態	実習	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	9単位	個人理解のもと介護計画の立案・実施・評価ができる。基本的なコミュニケーション技法を展開できる。基本的な介護技術を展開できる。介護福祉士としての介護観を確立できる。
授業担当者	隈本つばさ 山田 英介 加藤浩和	
使用テキスト 参考文献	全教科テキスト	
評価方法	実習態度、介護技術、資質・適性	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
第3期実習	利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を学習とする。	第3期実習(6月)下記の施設1ヶ所にて24日間の施設実習をする。 実習施設の理念、特色、業務を理解する。 介護現場におけるコミュニケーション、介護技術を利用者に応じ補助・実践行う。 担当利用者との関係づくりを図り、介護過程を展開する。 レクリエーションの実施をする。 (1)介護老人福祉施設 (2)介護老人保健施設 (3)障害者自立支援施設 (4)救護施設
第4期実習	利用者の課題を明確にするため他職種との連携のもと、具体的な介護サービスの提供を総合的視野で考え、利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、評価する過程を養う。	第4期実習(10月)下記の施設1ヶ所にて20日間の施設実習をする。 実習施設の理念、特色、業務を理解する。 介護現場におけるコミュニケーション、介護技術を利用者に応じ補助・実践行う。 担当利用者との関係づくりを図り、介護過程を展開する。 レクリエーションの実施をする。 (1)介護老人福祉施設 (2)介護老人保健施設 (3)障害者自立支援施設 (4)救護施設

シラバスデータ		2025/4/1
科目名	発達と老化の理解 I	
年度	令和7年度	授業の目的・ねらい
学科	介護福祉学科	加齢に伴うところからだの変化と日常生活について理解する。
学年	1年	
コース		授業全体の内容の概要
開講時期	前期	命の誕生から死に至るまでの心身の発達や成長・成熟、生理的变化について学修する。
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	2単位	ライフサイクルの各期における身体的・心理的・社会的特徴、発達課題について説明することができる。
授業担当者	本多祥子	
実務家教員	○	医療機関における看護師としての実務経験や介護保険事業所で介護支援専門員として従事した経験に基づき、加齢に伴うところからだの変化に関連する具体的な事例を用いて講義します。
使用テキスト 参考文献	[使用テキスト・参考文献] 最新 介護福祉全書(メジカルフレンド社) 最新介護福祉士養成講座12「発達と老化の理解」第2版	
評価方法	授業態度、出席状況および学期末試験の成績で総合評価する。	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	人間の成長と発達の基礎的理解①	・「成長」「発達」「成熟」の違い ・生理的発達(スキャモンの発達曲線/グループワーク)
2	人間の成長と発達の基礎的理解②	・「成長」「発達」の考え方と環境 ・「成長」「発達」に影響する要因
3	発達段階と発達課題①	・発達理論
4	発達段階と発達課題②	・発達理論における発達段階と発達課題
5	発達段階と発達課題③	・身体的機能の「成長」「発達」 ・発達段階別の特徴的な疾病
6	発達段階と発達課題④	・心理的機能の発達
7	発達段階と発達課題⑤	・社会的機能の発達
8	老年期の特徴と発達課題①	・老年期の定義
9	老年期の特徴と発達課題②	・適応規制
10	老年期の特徴と発達課題③	・老年期の発達課題 ・老年期をめぐる今日的課題
11	老化に伴うところからだの変化と日常生活①	・老年期に経験しやすいライフイベント ・喪失体験と死別への適応
12	老化に伴うところからだの変化と日常生活②	・高齢者のこころの問題と精神障害 ・身体的な変化と生活への影響
13	老化に伴うところからだの変化と日常生活③	・老年期の統合失調症とせん妄 ・心理的な変化と生活への影響
14	老化に伴うところからだの変化と日常生活④	・老年期の日常生活 ・社会的な変化と生活への影響
15	総括	・第1回～第14回授業内容の振り返り ・授業修了時の達成課題(到達目標)の確認

シラバスデータ		
科目名	発達と老化の理解Ⅱ	
年度	2025年度	授業の目的・ねらい
学科	介護福祉学科	発達の観点からの老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を習得する学習とする。
学年	2年	
コース		授業全体の内容の概要
開講時期	後期	老年期にある人について身体的・心理的・社会的側面を含め、多面的に理解できるような内容「若い」や「死」を肯定的にみることができるようにとの意図の一環として、老年観について考える
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	2単位	①「若い」や「死」を肯定的にみることができ、老年観について考えることができる ②老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を習得する
授業担当者	本多祥子	
使用テキスト 参考文献	最新 介護福祉士全書(メジカルフレンド社) 第9巻 発達と老化の理解	
評価方法	授業態度、出席状況および学期末試験の成績で総合評価する。	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	心身機能の老化と日常生活への影響①	心身機能の老化の特徴
2	心身機能の老化と日常生活への影響②	身体的機能の老化
3	心身機能の老化と日常生活への影響③	知的・認知機能の老化
4	心身機能の老化と日常生活への影響④	精神的機能の老化
5	心身機能の老化と日常生活への影響⑤	心身機能の老化の日常生活への影響
6	心身機能の老化と日常生活への影響⑥	心身機能の老化を遅らせるのに 何が効果的か
7	高齢者に多い症状・病気①	高齢者に多い症状と日常生活での留意点
8	高齢者に多い症状・病気②	高齢者に多い病気と日常生活での留意点
9	高齢者に多い症状・病気③	病気をもつ高齢者を見るときの介護福祉士と保健医療職との連携
10	高齢者の心理①	老化を受け止める高齢者の気持ち
11	高齢者の心理②	社会や家庭での役割を失う高齢者の気持ち
12	高齢者の心理③	障害を受け止める高齢者の気持ち
13	高齢者の心理④	友人との別れを受け止める高齢者の気持ち
14	高齢者の心理⑤	経済的不安を抱える高齢者の気持ち
15	高齢者の心理⑥	その他

シラバスデータ		
科目名	認知症の理解	
年度	2025年度	授業の目的・ねらい
学科	介護福祉学科 総合福祉学科	認知症の医学的側面、種類、特徴、介護方法などの認知症に関する基礎的知識を習得し、認知症の人の理解に結びつける。認知症を取り巻く環境、チームアプローチ、家族支援などの視点を養う。
学年	1年	
コース		授業全体の内容の概要
開講時期	通年	認知症の定義、認知症ケアの歴史、視点の変遷、認知症症状と原因疾患、社会的・心理的環境、生活に与える影響や環境の及ぼす力、認知症の人を支えるには、地域資源、多職種協働、介護家族ケア
授業回数	30回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	4単位	① なぜ認知症の人について学ぶ必要があるのか理解できる ② 医学面、心理面での認知症の人の理解を深めることができる ③ 本人本位の視点の重要性が理解できる
授業担当者	加藤浩和	
使用テキスト 参考文献	新・介護福祉士養成講座(中央法規) 第12巻 認知症の理解	
評価方法	授業態度、出席状況および学期末試験の成績で総合評価する。	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	認知症を取り巻く状況	認知症とは何か 認知症のある高齢者の現状と今後 テキストP2～
2	認知症を取り巻く状況	認知症の人を取り巻く状況 これまで一今一これから テキストP110～
3	認知症を取り巻く状況	認知症の人を取り巻く状況 これまで一今一これから
4	認知症を取り巻く状況	認知症ケアの理念と視点 テキストP121～
5	認知症を取り巻く状況	認知症ケアの理念と視点
6	認知症の人の医学・行動・心理的理解	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解 認知症の中核症状の理解 テキストP34～
7	認知症の人の医学・行動・心理的理解	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解 認知症の中核症状の理解
8	認知症の人の医学・行動・心理的理解	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解 生活障害・BPSDの理解 テキストP42～
9	認知症の人の医学・行動・心理的理解	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解 生活障害・BPSDの理解
10	認知症の人の医学・行動・心理的理解	認知症の診断と治療 テキストP65～
11	認知症の人の医学・行動・心理的理解	認知症の原因疾患と症状・生活障害 テキストP78～
12	認知症の人の医学・行動・心理的理解	認知症ケアの実際 パーソン・センタード・ケア テキストP154～
13	認知症の人の医学・行動・心理的理解	認知症ケアの実際 パーソン・センタード・ケア テキストP154～
14	認知症の人の医学・行動・心理的理解	認知症ケアの実際 認知症の人とのコミュニケーション テキストP191～

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
15	認知症の人の体験の理解	認知症ケアの実際 認知症の人とのコミュニケーション
16	認知症の人の生活の理解	認知症ケアの実際 認知症の人へのケア テキストP197～
17	認知症の人の生活の理解	認知症ケアの実際 認知症の人へのさまざまなアプローチ テキストP225～
18	認知症の人に対する介護	認知症ケアの実際 認知症の人へのさまざまなアプローチ
19	認知症の人の生活の理解	認知症の人へのかかわりの基本
20	認知症の人の生活の理解	若年性認知症の人の生活の理解と支援
21	介護者支援	家族への支援 テキストP264～
22	介護者支援	その他の支援
23	認知症の人の地域生活支援	地域包括ケアシステムにおける認知症ケア 連携と協働 テキストP300～
24	認知症の人の地域生活支援	地域包括ケアシステムにおける認知症ケア
25	応用授業	事例検討
26	応用授業	事例検討
27	応用授業	事例検討
28	応用授業	事例検討
29	応用授業	事例検討
30	試験	

シラバスデータ		
科目名	障害の理解 I	
年度	2025年度	授業の目的・ねらい
学科	介護福祉学科	① 障害のある人の基礎的理解ができる。 ② 障害の医学的・心理的側面の基礎的理解ができる。 ③ 障害のある人の体験を理解し、障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援ができる。
学年	1年	
コース		授業全体の内容の概要
開講時期	後期	身体障害、知的障害、視覚障害、聴覚障害、精神障害等の障害形態別に伴う障害の理解と対処する
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	2単位	・障害の医学的側面を理解することで、基本的知識および(専門)用語が身につけられている。 ・障害の特性を理解することで、障害にあった対処ができる。 ・畠族、地域、保健医療従事者との情報交換やチームアプローチの方法を知ることができる。
授業担当者	三嶋秀子	
使用テキスト 参考文献	新・介護福祉士養成講座 13障害の理解	
評価方法	授業態度、出席状況および学期末試験の成績で総合評価する。	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	授業の導入	自己紹介 障害とは何か 障害の概念
2	イメージする	老人・障害者の心理(VTR)
3	法的定義	わが国における障害者の法的定義
4	基本理念	障害者福祉の基本理念
5	視覚障害	視覚障害のある人の生活
6	視覚障害	視覚障害のある人の生活
7	聴覚・言語障害	聴覚・言語障害のある人の生活
8	聴覚・言語障害	聴覚・言語障害のある人の生活
9	肢体不自由	肢体不自由(運動機能障害)のある人の生活
10	肢体不自由	肢体不自由(運動機能障害)のある人の生活
11	内部障害	内部障害のある人の生活
12	内部障害	内部障害のある人の生活
13	内部障害	内部障害のある人の生活
14	内部障害	内部障害のある人の生活
15	試験	後期試験の実施

シラバスデータ		
科目名	障害の理解Ⅱ	
年度	2025年度	授業の目的・ねらい
学科	介護福祉学科	① 障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得する。 ② 障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する。 ③ 連携と協働を学ぶ。 ④ 家族への支援を学ぶ。
学年	2年	
コース		授業全体の内容の概要
開講時期	前期	様々な障害形態別に伴う障害の理解と、対処するための心理や身体機能の知識を習得するため、参考図書を使用した講義やビデオ(画像)による学習を行う。
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	2単位	<ul style="list-style-type: none"> ・障害の医学的側面を理解することで、基本的知識および(専門)用語が身につけられている。 ・障害の特性を理解することで、障害にあった対処ができる。 ・家族、地域、保健医療従事者との情報交換やチームアプローチの方法を知ることができる。 ・国家試験に合格するレベルの知識を習得する。
授業担当者	三嶋秀子	
使用テキスト 参考文献	新・介護福祉士養成講座 13障害の理解	
評価方法	授業態度、出席状況および学期末試験の成績で総合評価する。	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	高次機能障害	高次機能障害のある人の生活
2	発達障害	発達障害のある人の生活
3	重症心身障害	重症心身障害のある人の生活
4	内部障害	内部障害のある人の生活(心臓機能)
5	内部障害	内部障害のある人の生活(腎臓機能)
6	内部障害	内部障害のある人の生活(呼吸機能)
7	内部障害	内部障害のある人の生活(膀胱・直腸機能)
8	内部障害	内部障害のある人の生活(HIV)
9	内部障害	内部障害のある人の生活(肝臓機能)
10	難病	難病のある人の生活
11	基本的視点	障害のある人に対する介護の基本的視点
12	基本的視点	障害のある人に対する介護の基本的視点
13	家族への支援	家族への支援
14	連携と協働	連携と協働
15	試験	前期試験の実施

シラバスデータ		
科目名	からだのしくみ	
年度	2025年度	授業の目的・ねらい
学科	介護福祉学科	・介護を行う上で心身機能と身体構造は、当然必要で理解しておかなければならない知識である。利用者の病態を正しく理解し、対応を知ることによって、より充実した介護サービスを提供できるよう知識を深める。
学年	2年	
コース		授業全体の内容の概要
開講時期	前期	・介護の実践に沿ったところとからだのしくみを理解する。また、ビデオ等の教材を使用し、視覚的に理解できるようになる。
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	2単位	・医療、福祉、介護現場に必要な専門(医学)用語が身についている。 ・人体の構造・働きを理解したうえで、根拠に基づくケアができる。
授業担当者	三嶋秀子	
使用テキスト 参考文献	メジカルフレンド 「ところとからだのしくみ」	
評価方法	授業態度、出席状況および学期末試験の成績で総合評価する。	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	授業の導入	生きているしくみの理解(おさらい)
2	医学の復習	生きているしくみの理解(おさらい)
3	医学の復習	生きているしくみの理解(おさらい)
4	身じたくに関連したところとからだのしくみ	基礎知識(身じたく行為の生理的意味など)
5	身じたくに関連したところとからだのしくみ	機能の低下・障害が及ぼす整容行動の影響(機能の低下・障害の原因およびその影響)環境
6	移動に関連したところとからだのしくみ	基礎知識(移動行為の生理的意味、重心、バランス、良肢位など)
7	移動に関連したところとからだのしくみ	機能の低下・障害が及ぼす移動の影響・生活場面におけるからだの変化の気づき
8	食事に関連したところとからだのしくみ	基礎知識(からだをつくる栄養素、1日に必要な水分量・栄養量など)
9	食事に関連したところとからだのしくみ	機能の低下・障害が及ぼす食事の影響・生活場面におけるからだの変化の気づき
10	入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみ	基礎知識(清潔保持の生理的意味など)・機能の低下・障害が及ぼす入浴の影響・生活場面におけるからだの変化の気づき
11	排泄に関連したところとからだのしくみ	基礎知識・機能の低下・障害が及ぼす排泄の影響・生活場面におけるからだの変化の気づき
12	休息・睡眠に関連したところとからだのしくみ	基礎知識・機能の低下・障害の原因およびその影響・生活場面におけるからだの変化の気づき
13	死にゆく人のところとからだのしくみ	「死」の捉え方 ・終末期から危篤、死亡時のからだの理解 ・「死」に対する心の理解 人生の最終段階のケアに関連したところとからだのしくみ
14	国家試験対策	国家試験対策
15	試験	前期試験の実施

シラバスデータ		
科目名	医学一般	
年度	2025年度	授業の目的・ねらい
学科	介護福祉学科 総合福祉学科	介護を行う上で心身機能と身体構造は、理解しておかなければならない知識である。利用者の病態を正しく理解し、対応を知ることによって、より充実した介護サービスを提供できるよう知識を深める。
学年	1年	
コース		授業全体の内容の概要
開講時期	前期	介護の実践に沿ったところとからだのしくみを理解する。
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	2単位	医療、福祉、介護現場に必要な専門(医学)用語が身についている。 人体の構造・働きを理解したうえで、根拠に基づくケアができる。
授業担当者	三嶋秀子	
使用テキスト 参考文献	公益財団法人 介護労働安定センター「介護のための医学の基礎」	
評価方法	授業態度、出席状況および学期末試験の成績で総合評価する。	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	授業の導入	アンケート 医学を学ぶ必要性を認識する
2	人体の構造と働き	人体の区分 解剖学用語
3	人体の構造と働き	骨格系 筋系 主な疾患 対処方法
4	人体の構造と働き	調節系 脳と脊髄 主な疾患 対処方法
5	人体の構造と働き	循環器系 主な疾患 対処方法
6	人体の構造と働き	呼吸器系 主な疾患 対処方法
7	人体の構造と働き	消化器系 主な疾患 対処方法
8	人体の構造と働き	観察 バイタルサイン
9	人体の構造と働き	排泄系 主な疾患 対処方法
10	人体の構造と働き	代謝系 主な疾患 対処方法
11	人体の構造と働き	感覚器系 主な疾患 対処方法
12	人体の構造と働き	生殖器系 主な疾患 対処方法
13	人体の構造と働き	免疫系 主な疾患 対処方法
14	主な疾患の概要	高齢者に多い呼吸器疾患・循環器疾患 腎、泌尿器疾患・消化器疾患 等
15	試験	前期試験の実施

シラバスデータ		
科目名	こころのしくみ	
年度	2025年度	授業の目的・ねらい
学科	介護福祉学科	介護実践に必要な知識という観点から、こころのしくみについての知識を養う。
学年	2年	
コース		授業全体の内容の概要
開講時期	後期	介護の実践に沿ったところとからだのしくみを理解する。また、ビデオ等の教材を使用し、視覚的に理解できるようにする。
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	2単位	①こころのしくみの基礎的理解を習得する。 ②介護技術の根拠となる人の機能やこころのしくみを理解し、それに伴う心理的側面への配慮について理解する。
授業担当者	三嶋秀子	
使用テキスト 参考文献	メジカルフレンド 「こころとからだのしくみ」	
評価方法	授業態度、出席状況および学期末試験の成績で総合評価する。	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	授業の導入	「こころと脳のつながり」・脳のしくみの基礎
2	こころを働かせるしくみの理解	感覚・知覚・認知のしくみ
3	こころを働かせるしくみの理解	学習と動機づけ
4	こころを働かせるしくみの理解	欲求と感情のしくみ
5	こころを働かせるしくみの理解	自分を守るこころのしくみ
6	こころを働かせるしくみの理解	こころの発達と自己概念
7	心の傷を受けるとどうなるか	ストレス関連障害
8	心の傷を受けるとどうなるか	PTSDを深掘する
9	心の傷を受けるとどうなるか	適応障害
10	死にゆく人のこころのしくみ	死に対する恐怖と不安 死を受容する段階 人生の最終段階のケアに関連したこころのしくみ
11	死にゆく人のこころのしくみ	家族が死を受容する段階 家族支援 ホスピス
12	メンタルヘルス	健康な人格について
13	メンタルヘルス	統合失調症について
14	メンタルヘルス	こころの治療と予防について
15	試験	後期試験の実施

シラバスデータ		2025/4/1
科目名	心理学	
年度	令和7年度	授業の目的・ねらい
学科	介護福祉学科	心理学の理論を理解し、心理的支援力を高める。 さらに、支援における支援者と被支援者の相互作用を理解し、福祉における今日の問題への対応力をつける。
学年	1年	
コース		授業全体の内容の概要
開講時期	前期	心理学理論による人の理解とその技法の基礎について理解する。人の成長、発達と心理との関係について理解する。
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	2単位	○心理学の理論、特に心の発達について理解する。 ○アセスメント手法、福祉現場での活用方法を理解する ○福祉における今日の問題を理解し、対応方法を身につける。
授業担当者	土屋 廣人	
実務家教員	○	児童相談所・児童心理治療施設等児童福祉施設・県児童福祉行政・常葉短大特任教授としての実務経験
使用テキスト 参考文献	社会福祉学習双書 第11巻 心理学 全国社会福祉協議会	
評価方法	授業終了後、「学生の手引き」に従い試験を実施し、評価する。	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	ガイダンス	心理学を学ぶ理由を考える。特に自己理解と他者理解の必要性を理解する。
2	自己理解1	自らの発達課題の理解し、支援としての心理学的理解の必要性を学ぶ。
3	心理学の歴史	心理学の発展経過を理解し、現代心理学の潮流を学ぶ。
4	心と脳	心について脳構造から理解する。
5	知覚と認知	感覚・知覚から認知の過程を理解し、錯覚等をしやすい認知機能への理解を深める。
6	発達と学習	発達と学習の関係、及び学習の機能を理解する。
7	知能とは	知能の概念と知能テストの理解し、加えて知的障害の理解を深める。
8	発達課題とは	生涯発達の概念を理解する。特に愛着の発達の重要性を学ぶ。
9	人と環境のアセスメント	人への環境の影響と様々なアセスメントの必要性と方法を学ぶ。
10	行動観察の手法	支援者としての観察手法を学び、対人理解力を深める。
11	自己理解2	性格検査から自己理解を進め、心理検査の利用について理解を深める。
12	ケアリングとカウンセリング	ストレスを理解し、対応としてのケアリングやカウンセリングの理解を深める。
13	今日の問題1	虐待・家庭内暴力・依存症・自殺等についての理解を深める。
14	今日の問題2	障害受容の困難さを理解し、心の健康への関わり方を学ぶ。
15	まとめ	授業の到達目標に沿って、理解が深まった点、浅かった点を見直す。

シラバスデータ		
科目名	医療的ケア I	
年度	2025年度	授業の目的・ねらい
学科	介護福祉学科	福祉領域の専門家である介護福祉士が、医療分野の理念や倫理を理解し、喀痰吸引・経管栄養についての医療的ケア実施の基礎的知識を習得する。
学年	1年	
コース		授業全体の内容の概要
開講時期	通年	医療的ケア、安全な療養生活(救急蘇生法)、清潔保持と感染予防、健康状態の把握、喀痰吸引概論、喀痰吸引実施手順解説、経管栄養概論、経管栄養実施手順解説。
授業回数	30回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	4単位	① 医療的ケアとはどういうものか、また介護福祉士が医療的ケアを行うようになった背景が理解できる。 ② 喀痰吸引・経管栄養に関する基礎的知識、実施手順と留意点について理解することができる。
授業担当者	三嶋秀子・小林涼	
実務者教員	○	病院における看護師としての実務経験
使用テキスト 参考文献	新・介護福祉士養成講座 医療的ケア 第2版(中央法規)	
評価方法	授業態度、出席状況および学期末試験の成績で総合評価する。	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	医療的ケア	医療的ケアとは。医行為について、喀痰吸引等制度
2	医療的ケア	医療的ケアと喀痰吸引等の背景、その他の制度
3	安全な療養生活	ヒヤリハット、アクシデント
4	清潔保持と感染予防	感染予防・職員の感染予防・療養環境の清潔、消毒法
5	清潔保持と感染予防	滅菌と消毒
6	健康状態の把握	身体・精神の健康 健康状態を知る項目 バイタルサイン
7	健康状態の把握	バイタルサイン、急変状態について
8	安全な療養生活	救急蘇生
9	安全な療養生活	救急蘇生
10	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論	呼吸のしくみとはたらき
11	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論	いつもと違う呼吸状態
12	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論	喀痰吸引とは
13	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論	人工呼吸器と吸引
14	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論	子どもの吸引について、吸引を受ける利用者や家族の理解

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
15	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論	呼吸器系の感染と予防
16	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論	喀痰吸引により生じる危険、事後の安全確認
17	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論	急変・事故発生時の対応と事前対策
18	高齢者および障害児・者の経管栄養概論	消化器系のしくみとはたらき
19	高齢者および障害児・者の経管栄養概論	消化・吸収とよくある消化器の症状
20	高齢者および障害児・者の経管栄養概論	注入する内容に関する知識
21	高齢者および障害児・者の経管栄養概論	経管栄養実施上の留意点・子どもの経管栄養について
22	高齢者および障害児・者の経管栄養概論	経管栄養を受ける利用者や家族の理解
23	高齢者および障害児・者の経管栄養概論	経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認
24	高齢者および障害児・者の経管栄養概論	急変・事故発生時の対応と事前対策
25	実施手順概要	手順の解説
26	実施手順概要	手順の解説
27	実施手順概要	手順の解説
28	実施手順概要	手順の解説
29	国家試験対策	国家試験過去問題を解き解説を行う
30	試験	学期末試験の実施

シラバスデータ		
科目名	医療的ケアⅡ	
年度	2025年度	授業の目的・ねらい
学科	介護福祉学科	喀痰吸引・経管栄養・救急蘇生の実施手順、留意点を理解し、安心・安全・安楽に基づいた技術を身につける。
学年	2年	
コース		授業全体の内容の概要
開講時期	前期	喀痰吸引実施手順解説、経管栄養実施手順解説
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	2単位	①喀痰吸引・経管栄養についての概要、実施手順を理解することができる。 ②喀痰吸引・経管栄養についての正しい実施手順を理解し、施行することができる。
授業担当者	三嶋秀子・小林涼	
使用テキスト 参考文献	新・介護福祉士養成講座 別巻 医療的ケア(中央法規)	
評価方法	授業態度、基本研修・演習の評価票にて評価する。	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説	喀痰吸引で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔の保持
2	高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説	吸引の技術と留意点
3	高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説	吸引の技術と留意点
4	高齢者および障害児・者の喀痰吸引実施手順解説	喀痰吸引にともなうケア・報告および記録
5	高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説	経管栄養で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔の保持
6	高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説	経管栄養の技術と留意点
7	高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説	経管栄養の技術と留意点
8	高齢者および障害児・者の経管栄養実施手順解説	経管栄養に必要なケア・報告および記録
9	演習	演習の手順・説明
10	演習	喀痰吸引
11	演習	
12	演習	
13	演習	経管栄養
14	演習	
15	演習	

シラバスデータ		2024/4/1
科目名	ビジネス実務	
年度	2025年度	授業の目的・ねらい
学科	介護福祉学科	社会・組織の一員として必要不可欠な社会常識を理解し、初歩的な仕事を処理するために必要な知識やビジネスマナーを学び、社内外の人と良好な関係を築くために求められるコミュニケーション能力を習得する。
学年	1年	
コース		授業全体の内容の概要
開講時期	通年	ビジネスとコミュニケーションの基本、仕事の実践とビジネスツール、社会常識、の分野を学び、職業人にとって必要な知識とスキルを総合的に身につける。
授業回数	30回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	4単位	文部科学省認定「ビジネス能力検定3級」の検定取得を目標とする。 「社会人常識マナー検定3級」の検定取得を目標とする。
授業担当者	伊藤 知圭子	
使用テキスト参考文献	日本能率協会マネジメントセンター 発行 文部科学省認定「ビジネス能力検定3級公式テキスト」 日本能率協会マネジメントセンター 発行 文部科学省認定「ビジネス能力検定3級公式試験問題」 公益財団法人 全国経理教育協会 発行「社会人常識マナー検定テキスト2・3級」	
評価方法	授業態度、出席状況および検定取得状況により評価する。	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	オリエンテーション	社会人としての自覚
2	組織と役割	会社組織の成り立ちを理解し、リーダーとフォロワーに必要なものを知る
3	社会の変化	多様な雇用形態を知り、変動する社会に対応する力を身につける
4	仕事と目標	目標が持つ意味、重要性を理解する
5	主体性と組織運営	社会の一員として、社会を支える当事者であることを自覚し、目的意識を持つ
6	幅広い社会常識	政治・経済や税金・社会保障に関連する基礎知識を身につける
7	日本語の意思伝達	ビジネスの基礎は日本語で、漢字の読み書きを再確認する
8	社会常識の知識	日常生活に浸透するカタカナ用語や欧文略語などのキーワードを身につける
9	ビジネス計算	ビジネスにおける計算力の重要性を理解する
10		分析力・思考力・応用力の重要性を理解し、数式を元に課題を解決する力を身につける
11	ビジネスにおけるコミュニケーション	意思疎通の重要性を理解し、良い人間関係のためのコミュニケーションを身につける
12	コミュニケーション力向上のポイント	第一印象の重要性を理解し、好感を持たれる立ち居振る舞いや挨拶・美しいお辞儀を身につける
13	敬語を使いこなす	尊敬語、丁寧語、謙譲語を使い分け、職場での言葉遣いを身につける
14	効果的に伝える	わかりやすい話し方と上手な聞き方を学ぶことで、好感を持たれる話し方を身につける
15	ビジネス文書の活用	ビジネス文書の種類と形式を学び、ビジネス文書の作成のポイントを理解する

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
16	ビジネス文書の活用	社内文書と社外文書の目的を理解する
17		演習を通して、ビジネス文書の書き方を身につける
18	分かりやすいグラフ	グラフの種類と作成のポイントを理解する
19	職場のマナー	組織の一員として、職場のマナーを理解する
20	心からもてなす	来客対応の重要性を理解し、基本手順を身につける
21	状況に応じた対応	面談約束ない来客に対応できる力や、訪問のマナーを身につける
22	電話対応	電話対応の重要性、特性、配慮、心構えを理解する
23	通信手段別の対応	FAXや携帯電話、状況に応じた電話対応を理解する
24	お祝いの気持ちを表す	人生の節目を祝う慶事のマナーを身につける
25	TPOやしきたりを踏まえる	弔事のマナー、病氣見舞いの思いやる気持ち、状況を踏まえつつ相手に気持ちを伝え方を理解する
26	受発信文書の適切な取扱い	文書類の受取や発送、特殊郵便物・大型郵便物・宅急便の扱いを身につける
27	職場環境を整える	オフィス環境と事務機器の取扱いを学ぶ
28	実りある話し合いのために	入念な下準備が会議を成功に導くため、そのポイントを理解する
29	情報を適切に管理する	文書類の保管、秘文書の取扱い、日程管理、押印の重要性を理解する
30	まとめ	授業の振り返りを行い、学びの定着を図る

シラバスデータ		2024/4/1
科目名	就職指導	
年度	令和7年度	授業の目的・ねらい
学科	介護福祉学科	① 自分自身を客観的に知り、表現する方法を見つける。 ② 就職に必要な知識を養う。
学年	1年	
コース	—	授業全体の内容の概要
開講時期	後期	・就職活動は自分の仕事を中心とした人生(将来)を考え、設計する為の重要な役割を果たし、自己実現に向けた第一歩であることを理解させる。 ・自己を知り、敵(企業などの就職先)を知って、いかに自分を高く売り込めるかを学ばせる。 ・「講義」は与えられたものとして受け止めるのではなく、自分自身のものとして理解し実施していかうとする学習姿勢を重要視する。
授業回数	15回	
授業形態	講義	
取得単位数	2単位	授業修了時の達成課題(到達目標)
授業担当者	原木伴美	本授業では、「就職」というゴールに加え、学生が「キャリア自律」について理解することを目標とする。
実務家教員	×	
使用テキスト 参考文献	自作プリント参考文献(社会人基礎力が身につくキャリアデザインブック(自己理解編・社会理解編)、イラスト図解!就職ワークブック、就職成功へのステップ)	
評価方法	授業態度、出席率、課題提出による総合評価とする。	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の内容を理解し、自分を発信することを体験しよう。
2	働く意義を考えよう	働く意義や価値について知ろう。
3	自分の性格を知ろう	簡単な診断を使って、自分の性格や強みを知ろう。
4	性格と仕事の関係性を知ろう	自分の性格と向いている仕事について考えよう。
5	職業理解	自分の目指す職業の特徴を知ろう。
6	職場の環境と働き方について理解しよう	職場の環境や働き方の違いを理解する。
7	仕事に必要なスキルを考えよう	仕事をするうえで必要なスキルを理解しよう。
8	自己表現に向けて①	自己PRを作成して、他者に伝える方法を学ぶ。
9	自己表現に向けて②	履歴書の書き方を学ぼう。
10	自己表現に向けて③	志望動機を考えよう。
11	自己表現に向けて④	履歴書を書いてみよう。
12	職場の文化と人間関係を理解しよう	職場の文化や人間関係を学び、適応する方法を考える。
13	キャリアパスを考えよう	長期的なキャリア設計を考える。
14	面接の基本を学ぼう	面接の準備と実践を通じて自信が持てるようにしよう。
15	まとめ	授業を通じて学んだことを整理し、就職活動への意識を高めよう。

シラバスデータ		
科目名	ゼミナール(福祉研究) I	
年度	2025年度	授業の目的・ねらい
学科	介護福祉学科	職業とキャリアでは、働く意義や職業選択の考え方から職業人としての心構えを身につける。福祉研究においては、実施している介護が科学的根拠に裏づけられたものであるかを実証していくことの意義を考え、論拠と主張を持って他者にわかるよう論述する方法を学ぶ。
学年	1年 2年	
コース		授業全体の内容の概要
開講時期	通年	今後職業人として活躍するために必要なスキルを身につけるため、職業とキャリア・福祉研究(ケーススタディ)に取り組む。
授業回数	90回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	4単位	① 仕事の目的意義、職業人の概念を知り、職業人としての意識、姿勢を知る ② 職業と社会の関係、位置づけや役割を知り、組織や社会の一員としての責任を知る ③ 事例を通しその生活課程を社会的・文和的背景と関連させながら詳細に記述し、そこから介護のあり方、支援のあり方を学ぶことができる
授業担当者	隈本つばさ 山田英介 三嶋秀子	
使用テキスト 参考文献	「職業とキャリア」(一般財団法人 職業教育・キャリア教育財団) 配布資料	
評価方法	授業態度、出席状況および試験の結果を総合して評価する。	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	職業とキャリア	職業とは何か、職業の意味
2	職業とキャリア	働くことの意義・目的、人生観と職業観
3	職業とキャリア	産業社会の発展と職業
4	職業とキャリア	職業の形態と種類、職業の分類 職業の形態と種類、職業と資格
5	職業とキャリア	職業の形態と種類 職業と会社・組織 職業選択と自分がめざす生き方、職業選択の理論
6	職業とキャリア	職業人としてのマインドとは、生活の自立と自律
7	職業とキャリア	誠実さ、思いやり、愛情、感謝 公平・公正、法令遵守、顧客・組織・社会への貢献
8	職業とキャリア	社会問題、情報社会、国際理解
9	職業とキャリア	少子高齢社会、労働環境、ワークライフバランス 日本の未来と私たち
10	職業とキャリア	職業人としてのマインドのまとめ
11	介護福祉の現場 とケーススタディ	ケーススタディの進め方
12	介護福祉の現場 とケーススタディ	ケーススタディの目的
13	介護福祉の現場 とケーススタディ	介護福祉士にとってのケーススタディ
14	介護福祉の現場 とケーススタディ	研究から学べること
15	ケーススタディの 進め方	研究過程を理解する

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
16	ケーススタディの進め方	進め方
17	ケーススタディの進め方	論文を書く
18	介護過程と具体的なケーススタディ	実習現場において求められる介護過程
19	介護過程と具体的なケーススタディ	実際のケーススタディに学ぶ
20	魅せるためのケーススタディ	ケーススタディと文章表現
21	魅せるためのケーススタディ	ケーススタディと文章技法
22	魅せるためのケーススタディ	体裁をつくる
23	魅せるためのケーススタディ	発表について
24	魅せるためのケーススタディ	プレゼンテーションに求められるスキル
25	ケーススタディで身につくスキル	介護福祉士の仕事
26	ケーススタディで身につくスキル	ケーススタディでスキルアップ
27	発表準備	制作
28	発表準備	制作
29	発表準備	制作
30	発表	発表振り返り
31	国家試験対策	対策授業・模擬試験
32	国家試験対策	対策授業・模擬試験
33	国家試験対策	対策授業・模擬試験
34	国家試験対策	対策授業・模擬試験
35	国家試験対策	対策授業・模擬試験
36	国家試験対策	対策授業・模擬試験
37	国家試験対策	対策授業・模擬試験
38	国家試験対策	対策授業・模擬試験
39	国家試験対策	対策授業・模擬試験
40	国家試験対策	対策授業・模擬試験
41	国家試験対策	対策授業・模擬試験

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
42	国家試験対策	対策授業・模擬試験
43	国家試験対策	対策授業・模擬試験
44	国家試験対策	対策授業・模擬試験
45	国家試験対策	対策授業・模擬試験
46	国家試験対策	対策授業・模擬試験
47	国家試験対策	対策授業・模擬試験
48	国家試験対策	対策授業・模擬試験
49	国家試験対策	対策授業・模擬試験
50	国家試験対策	対策授業・模擬試験
51	国家試験対策	対策授業・模擬試験
52	国家試験対策	対策授業・模擬試験
53	国家試験対策	対策授業・模擬試験
54	国家試験対策	対策授業・模擬試験
55	国家試験対策	対策授業・模擬試験
56	国家試験対策	対策授業・模擬試験
57	国家試験対策	対策授業・模擬試験
58	国家試験対策	対策授業・模擬試験
59	国家試験対策	対策授業・模擬試験
60	国家試験対策	対策授業・模擬試験
61	国家試験対策	対策授業・模擬試験
62	国家試験対策	対策授業・模擬試験
63	国家試験対策	対策授業・模擬試験
64	国家試験対策	対策授業・模擬試験
65	国家試験対策	対策授業・模擬試験
66	国家試験対策	対策授業・模擬試験
67	国家試験対策	対策授業・模擬試験

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
68	国家試験対策	対策授業・模擬試験
69	国家試験対策	対策授業・模擬試験
70	国家試験対策	対策授業・模擬試験
71	国家試験対策	対策授業・模擬試験
72	国家試験対策	対策授業・模擬試験
73	国家試験対策	対策授業・模擬試験
74	国家試験対策	対策授業・模擬試験
75	国家試験対策	対策授業・模擬試験
76	国家試験対策	対策授業・模擬試験
77	国家試験対策	対策授業・模擬試験
78	国家試験対策	対策授業・模擬試験
79	国家試験対策	対策授業・模擬試験
80	国家試験対策	対策授業・模擬試験
81	国家試験対策	対策授業・模擬試験
82	国家試験対策	対策授業・模擬試験
83	国家試験対策	対策授業・模擬試験
84	国家試験対策	対策授業・模擬試験
85	国家試験対策	対策授業・模擬試験
86	国家試験対策	対策授業・模擬試験
87	国家試験対策	対策授業・模擬試験
88	国家試験対策	対策授業・模擬試験
89	国家試験対策	対策授業・模擬試験
90	国家試験対策	対策授業・模擬試験